

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	コクリツダクイガクシヨクシヤノミズジョウダクイガク 国立大学法人お茶の水女子大学									
フリガナ大学の名称	チヤノミズジョウダクイガクイケン お茶の水女子大学大学院									
大学本部の位置	東京都文京区大塚2丁目1番1号									
大学の目的	広く知識を授け、深く専門の学術を教授、研究し、知的、道徳的及び応用的能力を養い、もって社会の諸分野における有為にして教養高き女子を養成し、併せて文化の進展に寄与することを目的とする。									
新設研究科等の目的	技術的解決方法を探求する工学の知識、人間と文化・社会との関わりを探求する人文学・社会科学の知識及びデータサイエンスの知識を幅広くかつ協働して学び、学术界・産業界・社会との協働を通して実践する共創能力を培うことにより、社会ニーズに対応した新しい技術の構築や技術を応用した文化の創造に資する実践力を有し、リーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的とする。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 共創工学部人間環境工学科、文化情報工学科
	人間文化創成科学研究科 共創工学専攻	2年	10人	—	20人	修士（共創工学）、修士（工学）、修士（学術）	工学関係、文学関係	令和8年4月 第1年次	東京都文京区大塚2丁目1番1号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程 比較社会文化学専攻 [定員減] (△2) (令和8年4月) ライフサイエンス専攻 [定員減] (△1) (令和8年4月)									
	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程 生活工学共同専攻 (廃止) (△7) ※令和7年10月学生募集停止									
大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程 比較社会文化学専攻 [定員減] (△2) (令和8年4月) 人間発達科学専攻 [定員減] (△1) (令和8年4月) ライフサイエンス専攻 [定員減] (△1) (令和8年4月) 理学専攻 [定員増] (4) (令和8年4月) * (補足) *「令和7年度大学・高専機能強化支援事業 支援2:高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援」に係る令和8年度入学定員増員を申請。										
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数						修了要件単位数		
	人間文化創成科学研究科 共創工学専攻 (博士前期課程)	講義	演習	実験・実習	計					
		31科目	36科目	0科目	67科目	30単位				
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設分	人間文化創成科学研究科 共創工学専攻 (博士前期課程)	7人 (7)	6人 (6)	1人 (1)	2人 (2)	16人 (16)	0人 (0)	9人 (9)		
	計	7 (7)	6 (6)	1 (1)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	— (—)		
既設	人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻 (博士前期課程)	20 (20)	22 (22)	3 (3)	8 (8)	53 (53)	0 (0)	1 (1)		
	人間発達科学専攻 (博士前期課程)	14 (14)	9 (9)	1 (1)	2 (2)	26 (26)	0 (0)	1 (1)		
	ジェンダー社会科学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)		
	ライフサイエンス専攻 (博士前期課程)	15 (15)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	24 (24)	0 (0)	9 (9)		
	理学専攻 (博士前期課程)	21 (21)	19 (19)	9 (9)	1 (1)	50 (50)	0 (0)	5 (5)		
	比較社会文化学専攻 (博士後期課程)	20 (20)	21 (21)	3 (3)	2 (2)	46 (46)	0 (0)	0 (0)		
	人間発達科学専攻 (博士後期課程)	14 (14)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	3 (3)		
ジェンダー学際研究専攻 (博士後期課程)	6 (6)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	1 (1)			

分	ライフサイエンス専攻（博士後期課程）	15 (15)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	24 (24)	0 (0)	4 (4)
	理学専攻（博士後期課程）	21 (21)	18 (18)	8 (8)	1 (1)	48 (48)	0 (0)	2 (2)
	生活工学共同専攻（博士後期課程）	5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
	計	159 (159)	124 (124)	34 (34)	18 (18)	335 (335)	0 (0)	— (—)
合 計		166 (166)	130 (130)	35 (35)	20 (20)	351 (351)	0 (0)	— (—)
職 種		専 属			そ の 他			計
事 務 職 員		96人 (96)			48人 (48)			144人 (144)
技 術 職 員		9人 (9)			0人 (0)			9人 (9)
図 書 館 職 員		8人 (8)			10人 (10)			18人 (18)
そ の 他 の 職 員		1人 (1)			3人 (3)			4人 (4)
指 導 補 助 者		0人 (0)			0人 (0)			0人 (0)
計		114人 (114)			61人 (61)			175人 (175)
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用			計	
	校 舎 敷 地	80,855㎡	0㎡	0㎡			80,855㎡	
	そ の 他	53,497㎡	0㎡	0㎡			53,497㎡	
	合 計	134,352㎡	0㎡	0㎡			134,352㎡	
校 舎	専 用	59,040㎡ (59,040㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)			59,040㎡ (59,040㎡)	
	講義室	63室	実験・実習室	171室	演習室	59室	新設研究科等の 専任教員研究室	
講義室等・新設研究科等の 専任教員研究室		63室	171室	59室		16室	大学全体	
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	人間文化創成科学研究科 共創工学専攻 (博士前期課程)	754,305 [226,255] (754,305 [226,255])	37,837 [33,357] (37,837 [33,357])	21,265 [14,718] (21,265 [14,718])	12,590 [12,584] (12,590 [12,584])	244 (222)	1 (1)	
	計	754,305 [226,255] (754,305 [226,255])	37,837 [33,357] (37,837 [33,357])	21,265 [14,718] (21,265 [14,718])	12,590 [12,584] (12,590 [12,584])	244 (222)	1 (1)	
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	
	教員1人当り研究費等		346千円	346千円	—千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		66,807千円	66,807千円	—千円	—千円	—千円	
	図書購入費	17,974千円	17,974千円	17,974千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	21,885千円	21,885千円	21,885千円	—千円	—千円	—千円	
学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
		818千円	536千円	—千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金、雑収入、寄附金、補助金等により維持する。						
大 学 等 の 名 称	お茶の水女子大学							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
文教育学部	年	人	年次 人	人		倍		東京都文京区 大塚2丁目1番1 号
人文科学科	4	50	—	210	学士 (人文科学)	1.14 ≪1.09≫ 1.15 ≪1.10≫	平成8 年度	令和6年度入学 定員減(△5)
言語文化学科	4	73	3年次 6人	318	学士 (人文科学)	1.16 ≪1.09≫	平成8 年度	令和6年度入学 定員減(△7)
人間社会学科	4	37	3年次 4人	162	学士 (人文科学)	1.16 ≪1.11≫	平成8 年度	令和6年度入学 定員減(△3)
芸術・表現行動学科	4	25	—	104	学士 (人文科学)	1.08 ≪1.04≫	平成8 年度	令和6年度入学 定員減(△2)

既設 大学等 の状 況	理学部						1.08 《1.05》		
	数学科	4	20	3年次 2人	84	学士 (理学)	1.04 《1.02》	昭和25 年度	
	物理学科	4	20	3年次 2人	84	学士 (理学)	1.19 《1.13》	昭和25 年度	
	化学科	4	20	3年次 2人	84	学士 (理学)	1.10 《1.05》	昭和25 年度	
	生物学科	4	24	3年次 2人	102	学士 (理学)	1.05 《1.03》	昭和25 年度	令和6年度入学 定員減(△1)
	情報科学科	4	36	3年次 2人	156	学士 (理学)	1.04 《1.03》	平成2 年度	令和6年度入学 定員減(△4)
	生活科学部						1.09 《1.07》		
	食物栄養学科	4	36	—	144	学士 (生活科学)	1.04 《1.04》	平成16 年度	
	人間・環境科学科	4	—	—	—	学士 (生活科学)	—	平成16 年度	令和6年度より 学生募集停止
	人間生活学科	4	39	3年次 4人	164	学士 (生活科学)	1.12 《1.08》	平成4 年度	
	心理学科	4	26	3年次 3人	110	学士 (心理学)	1.11 《1.09》	平成30 年度	
	共創工学部						1.07 《1.07》		
	人間環境工学科	4	26	3年次 3人	52	学士 (工学)	1.09 《1.09》	令和6 年度	
	文化情報工学科	4	20	—	40	学士 (文化情報工学)	1.05 《1.05》	令和6 年度	
	人間文化創成科学研究科 博士前期課程						1.22		
	比較社会文化学専攻	2	60	—	120	修士 (人文科学) 修士 (社会科学) 修士 (生活科学) 修士 (学術)	0.96	平成19 年度	
	人間発達科学専攻	2	27	—	54	修士 (人文科学) 修士 (社会科学) 修士 (生活科学) 修士 (学術)	1.34	平成19 年度	
	ジェンダー社会科学 専攻	2	18	—	36	修士 (人文科学) 修士 (社会科学) 修士 (生活科学) 修士 (学術)	1.02	平成19 年度	
	ライフサイエンス 専攻	2	40	—	80	修士 (生活科学) 修士 (理学) 修士 (学術)	1.41	平成19 年度	
	理学専攻	2	70	—	140	修士 (理学) 修士 (学術)	1.21	平成19 年度	
生活工学共同専攻	2	7	—	14	修士 (生活工学) 修士 (工学) 修士 (学術)	2.21	平成28 年度		

人間文化創成科学研究科 博士後期課程						1.16		
比較社会文化学専攻	3	27	—	81	博士 (人文科学) 博士 (社会科学) 博士 (生活科学) 博士 (学術)	0.89	平成19 年度	
人間発達科学専攻	3	14	—	42	博士 (人文科学) 博士 (社会科学) 博士 (生活科学) 博士 (学術)	1.55	平成19 年度	
ジェンダー学際研究 専攻	3	4	—	12	博士 (人文科学) 博士 (社会科学) 博士 (生活科学) 博士 (学術)	1.90	平成19 年度	
ライフサイエンス 専攻	3	13	—	39	博士 (生活科学) 博士 (理学) 博士 (学術)	0.91	平成19 年度	
理学専攻	3	13	—	39	博士 (理学) 博士 (学術)	1.39	平成19 年度	
生活工学共同専攻	3	2	—	6	博士 (生活工学) 博士 (工学) 博士 (学術)	0.72	平成28 年度	

附属施設の概要	<p>名称：お茶の水女子大学附属幼稚園 目的：入園した幼児を保育して、心身の発達を助けることを目的とし、保育を行い、また大学の附属園として、幼児教育の理論と実際に関する研究及びその実証、学生の保育、教育の実習と研究の場及び幼児教育の進歩向上に貢献することを目的とする。 所在地：東京都文京区大塚2丁目1番1号 設置年月：昭和55年4月 規模等：土地面積5,723㎡、建物延べ床面積1,327㎡</p> <p>名称：お茶の水女子大学附属小学校 目的：学校教育法に基づき小学校教育を行い、大学の附属学校として、教育の理論と実際に関する研究及びその実証、学生の教育実習及び小学校教育の向上に寄与することを目的とする。 所在地：東京都文京区大塚2丁目1番1号 設置年月：昭和55年4月 規模等：土地面積13,150㎡、建物延べ床面積7,624㎡</p> <p>名称：お茶の水女子大学附属中学校 目的：学校教育法に基づき中学校教育を行い、中学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証をするとともに、学生に教育実習を行わせることを目的とする。 所在地：東京都文京区大塚2丁目1番1号 設置年月：昭和55年4月 規模等：土地面積7,724㎡、建物延べ床面積5,978㎡</p> <p>名称：お茶の水女子大学附属高等学校 目的：学校教育法に基づき高等学校教育を行い、高等学校の教育理論及び実際に関する研究並びにその実証をするとともに、学生に教育実習を行わせることを目的とする。 所在地：東京都文京区大塚2丁目1番1号 設置年月：昭和55年4月 規模等：土地面積9,762㎡、建物延べ床面積5,715㎡</p>							
---------	---	--	--	--	--	--	--	--

(注)

- 1 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設研究科等の目的」、「新設研究科等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「既設分」については、共同教育課程に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、及び「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、「図書・設備」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人お茶の水女子大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
お茶の水女子大学				お茶の水女子大学				
文教育学部		3年次		文教育学部		3年次		
人文科学科	50		200	人文科学科	50		200	
言語文化学科	73	6	304	言語文化学科	73	6	304	
人間社会科学科	37	4	156	人間社会科学科	37	4	156	
芸術・表現行動学科	25		100	芸術・表現行動学科	25		100	
理学部		3年次		理学部		3年次		
数学科	20	2	84	数学科	20	2	84	
物理学科	20	2	84	物理学科	20	2	84	
化学科	20	2	84	化学科	20	2	84	
生物学科	24	2	100	生物学科	24	2	100	
情報科学科	36	2	148	情報科学科	36	2	148	
生活科学部		3年次		生活科学部		3年次		
食物栄養学科	36		144	食物栄養学科	36		144	
人間生活学科	39	4	164	人間生活学科	39	4	164	
心理学科	26	3	110	心理学科	26	3	110	
共創工学部		3年次		共創工学部		3年次		
人間環境工学科	26	3	110	人間環境工学科	26	3	110	
文化情報工学科	20		80	文化情報工学科	20		80	
計	452	30	1,868	計	452	30	1,868	
お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 博士前期課程				お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 博士前期課程				
比較社会文化学専攻	60	—	120	比較社会文化学専攻	58	—	116	定員変更(△2)
人間発達科学専攻	27	—	54	人間発達科学専攻	27	—	54	
ジェンダー社会科学専攻	18	—	36	ジェンダー社会科学専攻	18	—	36	
ライフサイエンス専攻	40	—	80	ライフサイエンス専攻	39	—	78	定員変更(△1)
理学専攻	70	—	140	理学専攻	70	—	140	
生活工学共同専攻	7	—	14	生活工学共同専攻	0	—	0	令和7年10月学生募集停止
				共創工学専攻	10	—	20	研究科の専攻の設置(設置報告)
人間文化創成科学研究科 博士後期課程				人間文化創成科学研究科 博士後期課程				
比較社会文化学専攻	27	—	81	比較社会文化学専攻	25	—	75	定員変更(△2)
人間発達科学専攻	14	—	42	人間発達科学専攻	13	—	39	定員変更(△1)
ジェンダー学際研究専攻	4	—	12	ジェンダー学際研究専攻	4	—	12	
ライフサイエンス専攻	13	—	39	ライフサイエンス専攻	12	—	36	定員変更(△1)
理学専攻	13	—	39	理学専攻	17	—	51	定員変更(4)*
生活工学共同専攻	2	—	6	生活工学共同専攻	2	—	6	
計	295	—	663	計	295	—	663	(補足) *「令和7年度大学・高専機能強化 支援事業 支援2:高度情報専門人材 の確保に向けた機能強化に係る支 援」に係る令和8年度入学定員増員 を申請。

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程生活工学共同専攻(廃止)	修士(生活工学) 修士(工学) 修士(学術)	工学、家政	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程共創工学専攻	11	5	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程共創工学専攻	修士(共創工学) 修士(工学) 修士(学術)	工学、文学	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程生活工学共同専攻	11	5
									大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程比較社会文化学専攻	3	1
									大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻	1	1
									大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程理学専攻	1	0
			計						11	5	計
大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程比較社会文化学専攻	修士(人文科学) 修士(社会科学) 修士(生活科学) 修士(学術)	文学、教育学・保育学、社会学、家政、音楽	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程比較社会文化学専攻	49	13	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程比較社会文化学専攻	修士(人文科学) 修士(社会科学) 修士(生活科学) 修士(学術)	文学、教育学・保育学、社会学、家政、音楽	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程比較社会文化学専攻	49	13
									新規採用	3	0
			計						55	17	計
大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻	修士(人文科学) 修士(社会科学) 修士(生活科学) 修士(学術)	法学、社会学、経済学、家政	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻	14	5	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻	修士(人文科学) 修士(社会科学) 修士(生活科学) 修士(学術)	法学、社会学、経済学、家政	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻	14	5
									新規採用	2	0
			計						16	7	計
大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程理学専攻	修士(理学) 修士(学術)	理学	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程理学専攻	46	19	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程理学専攻	修士(理学) 修士(学術)	理学	大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程理学専攻	46	19
									新規採用	1	0
			計						49	21	計

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成9年4月	人間文化研究科 博士前期課程 言語文化専攻 設置	文学、教育学・保育学	意見伺い(専攻)
	人間文化研究科 博士前期課程 人文学専攻 設置	教育学・保育学、社会学・社会福祉学、家政	
平成19年4月	人間文化創成科学研究科 博士前期課程 比較社会文化学専攻 設置	文学、教育学・保育学、社会学、家政、音楽	設置報告(研究科)
平成27年4月	人間文化研究科 廃止	—	廃止報告(研究科)
平成28年4月	人間文化創成科学研究科 博士前期課程 生活工学共同専攻 設置	工学、家政	意見伺い(専攻)
令和7年10月	人間文化創成科学研究科 博士前期課程 生活工学共同専攻の学生募集停止	—	学生募集停止(専攻)
令和8年4月	人間文化創成科学研究科 博士前期課程 共創工学専攻 設置	工学、文学	設置報告(専攻)

教育課程等の概要																			
(大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程 共創工学専攻)																			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員			
共創基礎科目群	共創工学概論	1・2前	/	2			○			7	6	1	2		0	0	オムニバス・共同		
	共創データサイエンス演習	1・2前		2				○										1	
	知的財産特論	1・2②		1					○										1
	技術者倫理	1・2後		1					○										1
	小計(4科目)	—		—	2	4	0				7	6	1	2	0	0		0	—
専門科目群 工学系科目(文化情報)	システムデザイン特論	1・2前	/	2			○					1					隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 隔年		
	ヒューマンコンピュータインタラクション演習	1・2後		2				○				1							
	建築意匠特論	1・2前		2				○			1								
	空間デザイン演習	1・2後		2					○		1								
	都市デザイン特論	1・2前		2				○				1							
	都市デザイン演習	1・2後		2					○			1							
	共創データベース特論	1・2前		2				○				1							
	共創データベース演習	1・2後		2					○				1						
	共創データ工学特論	1・2前		2				○				1							
	共創データ工学演習	1・2後		2					○				1						
	画像・音声技術特論	1・2前		2					○						1				
	画像・音声技術演習	1・2後		2						○						1			
可視化技術特論	1・2前	2					○							1					
可視化技術演習	1・2後	2						○							1				
工学と共創する学術(文化情報)	テキストアナリティクス特論	1・2前	/	2			○				1						1 1 1 1 1		
	テキストアナリティクス演習	1・2前		2					○			1							
	文化情報学特論	1・2通		2				○											
	文化情報学研究演習	1・2前		2					○										
	歴史情報学特論	1・2前		2				○											
歴史情報学研究演習	1・2後	2					○												
工学系科目(環境)	水環境工学特論	1・2前	/	2			○			1							1 1 1 1 1 1 1 1		
	水環境工学演習	1・2後		2					○		1								
	建築環境工学特論	1・2前		2				○				1							
	建築環境工学演習	1・2後		2					○			1							
	建築人間工学特論	1・2前		2				○			1								
	施設デザイン演習	1・2後		2					○			1							
	共創コンピュータネットワーク特論	1・2後		2				○							1				
	共創コンピュータネットワーク演習	1・2後		2					○						1				
共創分散処理特論	1・2後	2				○							1						
共創分散処理演習	1・2後	2					○						1						
工学と共創する学術系科目(環境)	自然地理学論	1・2後	/	2			○									1	1 1 1 1 1		
	地理情報科学	1・2前		2				○			1								
	地理情報科学演習	1・2後		2					○			1							
	都市環境学	1・2前		2				○							1				
	フェミニスト空間論	1・2前		2				○							1				
フェミニスト空間論演習	1・2後	2					○						1						
工学系科目(人間)	身体行動計測特論	1・2前	/	2			○				1						1 1 1 1 1 1 1 1 1		
	身体行動計測演習	1・2後		2					○			1							
	バイオマテリアル特論	1・2前		2				○				1							
	バイオマテリアル演習	1・2後		2					○				1						
	衣環境機能材料特論	1・2前		2				○					1						
	衣環境機能材料演習	1・2後		2					○					1					
	共創数理情報学特論	1・2後		2				○							1				
	共創数理情報学演習	1・2後		2					○						1				
	共創非線形数理特論	1・2後		2				○							1				
共創非線形数理演習	1・2後	2					○						1						
工学と共創する学術系科目(人間)	第四紀学特論	1・2前	/	2			○			1							1 1 1 1 1 1 1 1 1		
	人体計測学演習	1・2前		2					○			1							
	共創生命情報学特論	1・2前		2				○							1				
	共創生命情報学演習	1・2前		2					○						1				
	言語科学特論	1・2前		2				○			1								
	言語科学演習	1・2後		2					○			1							
	認知科学	1・2前		2				○					1						
	認知科学演習	1・2後		2					○				1						
	小計(54科目)	—		—	0	108	0				7	6	1	2	0	10		—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
専門実践科目群	共創インターンⅠ	1・2通	/		2			○		1		1				共同	
	共創建築インターンⅠ	1・2通			2			○		1							
	共創建築インターンⅡ	1・2通			2			○		1							
	共創工学ワークショップ・ファシリテーション (LIDEE)	1・2通			1			○		7	6	1	2				共同
	共創工学演習Ⅰ	1前			1			○		7	6	1	2				共同
	共創工学演習Ⅱ	1後			1			○		7	6	1	2				共同
	共創工学演習Ⅲ	2前			1			○		7	6	1	2				共同
	共創工学演習Ⅳ	2後			1			○		7	6	1	2				共同
	共創工学特別研究(修士)	2通			8			○		7	5	1					共同
小計(9科目)	—	—	8	11	0	—		7	6	1	2	0	0		—		
合計(67科目)				—	—	10	123	0	—	7	6	1	2	0	10	—	
学位又は称号	修士(共創工学、工学、学術)			学位又は学科の分野			工学関係、文学関係										
									授業期間等								
									1学年の学期区分			2学期		4学期			
									1学期の授業期間			15週		8週			
									1時限の授業の標準時間			90分		90分			
卒業・修了要件及び履修方法																	
<p>博士前期課程に2年以上在学し、授業科目について所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受け、学位論文の審査および最終試験に合格することとする。また、優れた研究業績を上げたと認められた者に関しては、本学の早期修了要件を満たした上で当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。共創基礎科目群から4単位以上、専門科目群から8単位以上(「工学系科目」から4単位以上、「工学と共創する学術系科目」から4単位以上。そのうち、演習科目は4単位以上)、専門実践科目群(選択科目)から2単位以上を含めて22単位以上履修し、共創工学特別研究(修士)8単位必修を含む30単位以上を履修する。併せて共創工学に相応しい修士論文を作成し、発表を行う。</p> <p>共創基礎科目群の選択科目のうち、共創データサイエンス演習、知的財産特論、技術者倫理から2単位を選択必修とする。</p> <p>専門実践科目群の選択科目のうち、共創工学演習Ⅰ～Ⅳから2単位を選択必修とする。</p> <p>共創建築インターンⅡは修了要件に含めない。</p>																	

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要

(共創工学部人間環境工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コア科目 文理融合 リベラル ラーニング	リベラルアーツ演習I	1前		2			○		2	1					オムニバス 隔年
	都市・建築・空間のかたち	1前		2			○								兼1
	リベラルアーツ演習I	1前		2			○								兼1
	データサイエンス入門	1前		2			○								兼5
	リベラルアーツ演習II	1前		2			○								兼1
	生命と環境1	1・2後		2		○									兼1
	生命と環境2	1・2後		2		○									兼1
	生命と環境3	1・2後		2		○									兼1
	生命と環境4	1・2後		2		○			1						兼1
	生命と環境5	1・2前		2		○									兼2
	生命と環境6	1・2後		2		○									兼1
	生命と環境21	1前		2				○							兼3
	生命と環境22	1前		2				○							兼2
	色・音・香1	1・2前		2		○									兼2
	色・音・香2	1・2前		2		○									兼3
	色・音・香3	1・2後		2		○									兼3
	色・音・香4	1・2前		2		○									兼1
	色・音・香5	1・2後		2		○									兼1
	色・音・香6	1・2前		2		○									兼1
	色・音・香7	1・2後		2		○									兼1
	色・音・香8	1・2前		2		○									兼1
	色・音・香9	1・2後		2		○									兼3
	色・音・香10	1・2後		2		○			1						兼3
	色・音・香22	1前		2			○								兼2
	生活世界の安全保障1	1・2後		2		○									兼1
	生活世界の安全保障2	1・2後		2		○									兼1
	生活世界の安全保障3	1・2後		2		○									兼4
	生活世界の安全保障4	1・2後		2		○									兼1
	生活世界の安全保障5	1・2前		2		○									兼1
	生活世界の安全保障7	1・2前		2		○									兼1
	生活世界の安全保障8	1・2後		2		○			1						兼1
	生活世界の安全保障9	1・2後		2		○									兼1
	生活世界の安全保障10	1・2後		2		○									兼1
	生活世界の安全保障23	1通		2				○							兼2
	生活世界の安全保障26	1・2後		2			○								兼2
	ことばと世界1	1・2後		2		○									兼1
ことばと世界2	1・2前		2		○									兼1	
ことばと世界3	1・2後		2		○									兼1	
ことばと世界5	1・2後		2		○									兼1	
ことばと世界6	1・2前		2		○									兼1	
ことばと世界7	1・2前		2		○									兼1	
ことばと世界8	1・2前		2		○									兼1	
ことばと世界10	1・2後		2		○									兼1	
ことばと世界11	1・2後		2		○									兼1	
ことばと世界12	1・2後		2		○									兼1	
ことばと世界13	1・2後		2		○									兼1	
ことばと世界27	1前		2			○								兼1	
ジェンダー1	1・2前		2		○									兼1	
ジェンダー2	1・2前		2		○									兼1	
ジェンダー3	1・2前		2		○									兼1	
ジェンダー4	1・2後		2		○									兼1	
ジェンダー5	1・2後		2		○									兼1	
ジェンダー8	1・2前		2		○									兼1	
ジェンダー9	1・2前		2		○									兼1	
ジェンダー10	1・2後		2		○									兼1	
小計 (53科目)		-	0	106	0	-			4	2	0	0	0	兼66	-

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	基礎ドイツ語Ⅲ	1③		2		○								兼2	オムニバス
	基礎ドイツ語Ⅳ	1④		2		○								兼2	オムニバス
	基礎ドイツ語(応用)Ⅰ(1)(2)	1①②		2			○							兼1	
	基礎ドイツ語(応用)Ⅱ(1)(2)	1③④		2			○							兼1	
	発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)	2①②		2		○								兼1	
	発展ドイツ語Ⅱ(1)(2)	2③④		2		○								兼1	
	発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)	2①②		2			○							兼1	
	発展ドイツ語Ⅳ(1)(2)	2③④		2			○	○						兼1	
	基礎ドイツ語会話Ⅰ(1)(2)	1・2・3・4①②		2			○	○						兼1	
	基礎ドイツ語会話Ⅱ(1)(2)	1・2・3・4③④		2				○						兼1	
	ドイツ語初歩Ⅰ(1)(2)	1・2・3・4①②		2		○								兼1	
	ドイツ語初歩Ⅱ(1)(2)	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
	基礎フランス語Ⅰ	1①		2		○								兼2	共同
	基礎フランス語Ⅱ	1②		2		○								兼2	共同
	基礎フランス語Ⅲ	1③		2		○								兼2	共同
	基礎フランス語Ⅳ	1④		2		○								兼2	共同
	基礎フランス語(応用)Ⅰ(1)(2)	1①②		2			○							兼1	
	基礎フランス語(応用)Ⅱ(1)(2)	1③④		2			○							兼1	
	発展フランス語Ⅰ(1)(2)	2①②		2		○								兼1	
	発展フランス語Ⅱ(1)(2)	2③④		2		○								兼1	
	発展フランス語Ⅲ(1)(2)	2①②		2			○							兼1	
	発展フランス語Ⅳ(1)(2)	2③④		2			○	○						兼1	
	基礎フランス語会話Ⅰ(1)(2)	1・2・3・4①②		2			○	○						兼1	
	基礎フランス語会話Ⅱ(1)(2)	1・2・3・4①②		2				○						兼1	
	フランス語初歩Ⅰ(1)(2)	1・2・3・4①②		2		○								兼1	
	フランス語初歩Ⅱ(1)(2)	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
	基礎中国語Ⅰ	1①		2		○								兼1	
	基礎中国語Ⅱ	1②		2		○								兼1	
	基礎中国語Ⅲ	1③		2		○								兼1	
	基礎中国語Ⅳ	1④		2		○								兼1	
	基礎中国語(応用)Ⅰ(1)(2)	1①②		2		○								兼1	
	基礎中国語(応用)Ⅱ(1)(2)	1③④		2		○								兼1	
	発展中国語Ⅰ(1)(2)	2①②		2		○								兼1	
	発展中国語Ⅱ(1)(2)	2③④		2		○								兼1	
	発展中国語Ⅲ(1)(2)	2①②		2		○								兼1	
	発展中国語Ⅳ(1)(2)	2③④		2		○								兼1	
	基礎中国語会話Ⅰ(1)(2)	2・3・4①②		2			○							兼1	
	基礎中国語会話Ⅱ(1)(2)	2・3・4③④		2				○						兼1	
	中国語初歩Ⅰ(1)(2)	1・2・3・4①②		2		○								兼1	
	中国語初歩Ⅱ(1)(2)	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
	中国語プレゼンテーションⅠ	1・2・3・4前		2			○							兼1	隔年
	中国語プレゼンテーションⅡ	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	ロシア語初歩Ⅰ(1)(2)	1・2・3・4①②		2		○								兼1	
	ロシア語初歩Ⅱ(1)(2)	1・2・3・4③④		2		○								兼1	
	ロシア語会話Ⅰ(1)(2)	1・2・3・4①②		2			○							兼1	
	ロシア語会話Ⅱ(1)(2)	1・2・3・4③④		2				○						兼1	
	朝鮮語初歩Ⅰ(1)(2)	1・2・3・4①②		2		○								兼3	共同
	朝鮮語初歩Ⅱ(1)(2)	1・2・3・4③④		2		○								兼3	共同
	朝鮮語会話Ⅰ(1)(2)	1・2・3・4①②		2			○							兼1	
	朝鮮語会話Ⅱ(1)(2)	1・2・3・4③④		2				○						兼1	
	現代スペイン語Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	現代スペイン語Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	スペイン語会話Ⅰ(1)(2)	1・2・3・4①②		2			○							兼1	
	スペイン語会話Ⅱ(1)(2)	1・2・3・4③④		2				○						兼1	
	現代イタリア語Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	現代イタリア語Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	現代アジア諸語Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年
	現代アジア諸語Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	隔年
	現代アジア諸語Ⅲ	1・2・3・4前		2		○								兼1	隔年
	現代アジア諸語Ⅳ	1・2・3・4後		2		○								兼1	隔年
	小計(88科目)	—	0	176	0	—			0	0	0	0	0	兼48	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
スポーツ健康	スポーツ健康実習	1前・後	2					○							兼7	共同
	スポーツ科学概論	1・2・3・4前		2			○								兼1	隔年
	健康科学概論	1・2・3・4前		2			○								兼1	隔年
	生涯スポーツ	1・2・3・4①②③④		1					○						兼3	共同
	小計(4科目)	—	2	5	0		—			0	0	0	0	0	兼7	—
自由に選択して履修する科目	全学共通科目															
	NPO入門	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	パーソナル・ブランディング	1・2・3・4後		2			○								兼1	隔年
	女性のキャリアと経済	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	平和と共生演習	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	国際共生社会論実習	1・2・3・4通		2					○						兼2	オムニバス
	キャリアプラン	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	ICTとコミュニケーションスキル	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	アントレプレナーシップ演習(ディープテック編)	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	ジェンダー・イノベーション入門	1・2・3・4前		2			○								兼2	
	アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(モノ編))	1・2・3・4③		1				○							兼1	
	アントレプレナーシップ演習(ジェンダー・イノベーション実践編(コト編))	1・2・3・4④		1				○							兼1	
	アントレプレナー演習(SDGs編(モノ編))	1・2・3・4③		1				○							兼1	
	アントレプレナー演習(SDGs編(コト編))	1・2・3・4④		1				○							兼1	
	アントレプレナー演習(DX演習(製造業編))	1・2・3・4前		1				○			1					集中
	アントレプレナー演習(DX演習(ドローン編))	1・2・3・4前		1				○			1					
	アントレプレナー演習(DX演習(PoC編))	1・2・3・4後		1				○			1				兼1	集中 共同
	メディアコンテンツ特別講義	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	未来開拓入門	1・2・3・4前		1				○							兼1	集中
	女性のキャリアと法制度	1・2・3・4後			2			○							兼1	
	ダイバーシティ論	1・2・3・4後			2			○							兼1	
	グローバル・リーダーシップ実習Ⅰ	1・2・3・4後		2					○						兼1	
	グローバル・リーダーシップ実習Ⅱ	1・2・3・4後		2					○						兼1	
	キャリアプランと進路選択	1・2・3・4後		2					○						兼1	
	インターンシップⅠ	1・2・3・4通		1					○						兼1	
	インターンシップⅡ	1・2・3・4通		2					○						兼2	オムニバス
	博物館概論	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	博物館資料論	2・3・4前		2				○							兼1	隔年
	博物館経営論	2・3・4前		2				○							兼1	隔年
	博物館資料保存論	2・3・4後		2				○							兼1	隔年
	博物館展示論	2・3・4後		2				○							兼1	隔年
	博物館教育論	2・3・4後		2				○							兼1	隔年
	博物館実習	4前		3					○						兼7	オムニバス
	博物館情報・メディア論	2・3・4後		2				○							兼1	隔年
	日本の伝統芸能	1・2・3・4通		2					○						兼2	共同
	初等解析Ⅰ	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	初等解析Ⅱ(1)(2)	1・2・3・4①②		2				○							兼1	
	初等線形代数学	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	初等代数学	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	物理学概論A	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	物理学概論B	1・2・3・4後		2				○							兼1	
基礎化学B(1)(2)	1・2・3・4①②		2				○							兼7	オムニバス	
基礎生物学A	1・2・3・4後		2				○							兼4	オムニバス	
基礎生物学B	1・2・3・4後		2				○							兼2	オムニバス	
大気・海洋科学概論	1・2・3・4後		2				○							兼1	隔年	
物理学基礎実験	1・2・3・4後		2					○						兼2	オムニバス	
化学基礎実験	1・2後		2					○						兼2	オムニバス	
生物学基礎実験	1・2・3前		2					○						兼3	集中・オムニバス	
数理基礎論	1・2前		2				○							兼1		
生命情報学概論(1)(2)	1・2・3・4①②		2				○			1						
計算生物学(1)(2)	1・2・3・4③④		2				○			1				兼1	共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
	Academic Writing	3・4前		2			○							兼2	共同				
	Academic Presentation	3・4後		2			○							兼2	共同				
	Summer Program in English I	1・2・3・4前		2		○								兼1	集中				
	Summer Program in English II	1・2・3・4前		2		○				1				兼4	集中・オムニバス				
	Summer Program in English III	1・2・3・4前		2		○								兼6	集中・オムニバス				
	Summer Program in English V	1・2・3・4前		2			○							兼1	集中 隔年				
	グローバル・インターンシップ I	1・2・3・4後		2				○						兼1					
	グローバル・インターンシップ II	1・2・3・4後		2				○	○					兼1					
	国際交流実習 I	1・2・3通		2				○	○					兼1	隔年				
	国際交流実習 II	1・2・3後		2				○	○					兼1	集中 隔年				
	物理学サブリメント	1前			2	○								兼1					
	生物学サブリメント	1前			2	○								兼1					
	英語基礎強化ゼミ	1・2・3・4前		2			○							兼1					
	TOEFL対策ゼミR/L	1・2・3・4前		2			○	○						兼1					
	TOEFL対策ゼミS/W	1・2・3・4前		2			○	○						兼1					
	IELTS対策ゼミR/L	1・2・3・4後		2			○	○						兼1					
	IELTS対策ゼミS/W	1・2・3・4後		2			○	○						兼1					
	中国語力強化ゼミ I	1・2・3・4後		2			○	○						兼1					
	中国語力強化ゼミ II	1・2・3・4後		2			○	○						兼1					
	小計 (69科目)		0	108	22		—			2	1	0	0	0	兼73	—			
外国人留学生特別科目	日本語演習 I A	1・2・3・4前		2			○							兼1					
	日本語演習 I B	1・2・3・4後		2			○							兼1					
	日本語演習 II A	1・2・3・4前		2			○							兼1					
	日本語演習 II B	1・2・3・4後		2			○							兼1					
	日本語演習 III A	1・2・3・4前		2			○							兼1					
	日本語演習 III B	1・2・3・4後		2			○							兼1					
	日本語演習 IV A	1・2・3・4前		2			○							兼1					
	日本語演習 IV B	1・2・3・4後		2			○							兼1					
	日本語演習 V A	1・2・3・4前		2			○							兼1					
	日本語演習 V B	1・2・3・4後		2			○							兼1					
	日本事情演習 I A	1・2・3・4前		2			○							兼1					
	日本事情演習 I B	1・2・3・4後		2			○							兼1					
	日本事情演習 II A	1・2・3・4前		2			○							兼1					
	日本事情演習 II B	1・2・3・4後		2			○							兼1					
	日本事情演習 III A	1・2・3・4前		2			○							兼1					
	日本事情演習 III B	1・2・3・4後		2			○							兼1					
	日本事情演習 IV A	1・2・3・4前		2			○							兼1					
	日本事情演習 IV B	1・2・3・4後		2			○							兼1					
	日本事情演習 V A	1・2・3・4前		2			○							兼1					
	日本事情演習 V B	1・2・3・4後		2			○							兼1					
	小計 (20科目)	—	0	40	0		—			0	0	0	0	0	兼10	—			
共創工学共通科目群	共創工学総論	1前	2			○				7	4	0	1		兼10	オムニバス・共同 (一部)	○		
	共創プログラミング	1後		1		○									兼1	集中		○	
	共創デザインPBL (LIDEE演習) I	1・2・3・4通		1				○		7	4	0	1		兼10	オムニバス・共同		○	
	共創デザインPBL (LIDEE演習) II	2・3・4通		1				○		7	4	0	1		兼10	オムニバス・共同		○	
	デザイン思考とロジックモデル	2前	2				○			1					兼1	オムニバス・共同 (一部)	○		
	共創工学特別講義	1・2・3・4通		1		○				2					兼1	オムニバス	○		
	知的財産論	2前		1		○									兼1			○	
	技術と倫理	2前		1		○									兼1			○	
	共創工学フィールドワーク	2・3・4通		1			○			7	4	0	1		兼10	オムニバス・共同		○	
	共創インターンシップI	2・3・4通		2				○		1					兼1	共同		○	
	共創インターンシップII (建築)	2・3・4通		2				○		1					兼1	共同		○	
	卒業研究演習	4前		2			○			7	4	0	1		兼10	共同	○		
	小計 (12科目)	—	6	11	0		—			7	4	0	1	0	兼13	—	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
人間環境工学	基礎化学	1前	2			○						1								
	工学基礎物理学	1前		2			○			1										
	工学基礎数学	1前	2					○		1	1									
	工学基礎解析学	1後		2				○		1	1									
	有機化学	1後		2			○													
	設計製図基礎演習	1後		2				○		1										
	住居学概論	1後		2			○			1										
	データサイエンス(基礎)	1後	2				○													
	建築一般構造	1後		2			○			1										
	材料基礎実験	2前	2						○	1	1		1							
	人体計測学演習Ⅰ	2①		2				○		2										
	人体計測学演習Ⅱ	2②		2				○		1										
	生物化学	2前		2			○			1										
	環境衛生学	2前		2			○			1										○
	建築環境計画論	2前		2			○			1										
物理化学	2前		2			○					1								○	
統計学演習	2後		2				○												○	
基礎科目群(工学系)	データ計測処理演習	1後		2			○			1										○
	設計製造演習	2前		2			○			2	1									○
	設計製図演習Ⅰ	2前		2			○			1										○
	BIM演習	2前		2			○			1	1									○
	環境心理と調査法	2後	2			○				1										○
	設計製図演習Ⅱ	2後		2			○			1	1									○
	材料設計演習	2後		2			○			1	1									○
	社会共創マネジメントPBL	2・3・4通		2			○			1										○
	応用データ解析	3後		2			○			1										○
	機械学習	3前		2			○													○
	デジタルファブリケーション演習	3前		2				○				1								○
	データマイニング	3後		2			○													○
	設計製図演習Ⅲ	3後		2				○			1									○
小計(30科目)	-		10	50	0				7	4	0	1	0	兼13						-
発展科目群	身体形質と文化	1前		2			○			1										○
	基礎構造力学	1後		2			○													○
	日本建築史	2前		2			○													○
	建築構法計画	2前		1			○													○
	建築環境工学	2前		2			○				1									○
	建築意匠論	2前		2			○				1									○
	都市デザイン	2前		2			○				1									○
	高分子化学	2前		2			○				1									○
	機器分析演習	2後		2				○					1							○
	生体計測制御工学	2後		2			○				1									○
	西洋建築史	2後		2			○			1										○
	応用建築構造	2後		2			○													○
	センサーと人間工学	2後		2			○				1									○
	材料とデザイン	2後		2			○													○
	建築材料学	2後		2			○													○
	建築設備学	2後		2			○				1									○
	建築法規	3前		2			○													○
	水環境工学	3前		2			○			1										○
	生体材料学	3前		2			○				1									○
	第四紀学	3前		2			○			1										○
	サステイナブル環境論	3前		2			○			2	2									○
	生産とデザイン	3前		2			○													○
	生活材料物性	3前		2			○							1						○
生体電気電子工学	3後		2			○					1								○	
システム工学	3後		2			○													○	
小計(25科目)	-		0	49	0				4	4	0	1	0	兼8						-

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
共創工学応用科目群（人間環境工学）	環境工学実験実習	3前	2					○	1	1						オムニバス・共同（一部）	○		
	人間工学実験実習	3前	2					○	2	1						オムニバス・共同（一部）	○		
	生活工学実験実習	3前	2					○	1	1						オムニバス・共同（一部）	○		
	デザインPBL	3後		1				○	1	1						オムニバス・共同（一部）	○		
	環境共生PBL	3後		1				○	1	1						オムニバス・共同（一部）	○		
	人間健康PBL	3後		1				○	2	1						オムニバス・共同（一部）	○		
	生活材料PBL	3後		1				○	1	1			1			オムニバス・共同（一部）	○		
	共創輪講	4後		2				○	7	4				1		共同	○		
	卒業研究	4通		10				○	7	4				1		共同	○		
	小計（9科目）	-		18	4	0			-	7	4	0	1	0	兼0	-			
文化情報工学 学際プログラム	文化情報工学総論	1前	2					○							兼10	オムニバス・共同（一部）			○
	データサイエンス（基礎）	1後	2					○							兼1				○
	データサイエンス（中級）	2前	2					○							兼1				○
	データサイエンス（上級）	2後	2					○							兼1				○
	機械学習	3前	2					○							兼1				○
	データマイニング	3後	2					○							兼2	オムニバス・共同（一部）			○
	インターネット工学	1後	2					○							兼1				○
	文化情報デザイン工学	2後	2					○							兼1				○
	データベース工学	3前	2					○							兼1				○
	情報倫理	3・4前		2				○							兼1	隔年			○
	歴史情報学	3前		2				○							兼1				○
	歴史情報学演習	3後		2				○							兼1				○
	地理情報学	3前		2				○							兼1				○
	地理情報学演習	3後		2				○							兼1				○
	言語情報学	3前		2				○							兼1				○
	言語情報学演習	3後		2				○							兼1				○
	文化情報学	3前		2				○							兼1				○
	文化情報学演習	3後		2				○							兼1				○
	思想情報学	3前		2				○							兼1				○
	思想情報学演習	3後		2				○							兼1				○
	芸術情報学	3前		2				○							兼1				○
	芸術情報学演習	3後		2				○							兼1				○
	データベース設計演習	3後		2				○							兼1				○
	データマイニング演習	4前		2				○							兼2	共同			○
小計（24科目）	-		20	28	0			-	0	0	0	0	0	兼12	-				
合計（365科目）			-	58	635	22		-	7	4	0	1	0	兼247	-				
学位又は称号		学士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係											
												授業期間等							
						1 学年の学期区分		2 学期		4 学期									
						1 学期の授業期間		1 5 週		8 週									
						1 時限の授業時間		9 0 分		9 0 分									
卒業要件及び履修方法																			
卒業に必要な履修単位数は、コア（教養）科目34単位、専門教育科目80単位、自由に選択して履修する科目10単位、計124単位である。																			
専門教育科目については、複数プログラム選択履修制度により、第1のプログラムとして、人間環境工学主プログラム60単位（必修34単位／選択必修2単位（デザインPBL、環境共生PBL、人間健康PBL、生活材料PBLの4科目から2科目2単位）／選択24単位）を履修する。																			
第2のプログラムとして、人間環境工学強化プログラム20単位又は文化情報工学学際プログラム、他学部が開設する副プログラム・学際プログラムから選択したプログラム20単位を履修する。																			
コア科目中、外国語は12単位を必修とする。																			
人間環境工学主プログラム及び強化プログラムの対象となる科目は、本表の備考欄に示した。文化情報工学学際プログラムの対象となる科目は、人間環境工学科科目の後に一覧を示した。																			
他学部が開設する副プログラム・学際プログラムを選択する場合は、情報科学、生命情報学、消費者学の副プログラム・学際プログラムのいずれかを履修する。																			
（履修科目の登録の上限：46 単位程度（年間））																			

教育課程等の概要

(共創工学部文化情報工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
コア科目 文理融合リベラルアーツ	リベラルアーツ演習I 都市・建築・空間のかたち	1前		2			○								兼3	オムニバス 隔年
	リベラルアーツ演習I データサイエンス入門	1前		2			○		1							
	リベラルアーツ演習II	1前		2			○								兼1	
	生命と環境1	1・2後		2		○									兼5	オムニバス
	生命と環境2	1・2後		2		○									兼1	隔年
	生命と環境3	1・2後		2		○									兼1	
	生命と環境4	1・2後		2		○									兼1	
	生命と環境5	1・2前		2		○									兼2	オムニバス 隔年
	生命と環境6	1・2後		2		○									兼1	
	生命と環境21	1前		2				○							兼3	共同(一部)・隔年
	生命と環境22	1前		2				○							兼2	集中 共同
	色・音・香1	1・2前		2		○									兼2	オムニバス 隔年
	色・音・香2	1・2前		2		○									兼3	オムニバス 隔年
	色・音・香3	1・2後		2		○									兼3	オムニバス・共同(一部) 隔年
	色・音・香4	1・2前		2		○				1						
	色・音・香5	1・2後		2		○									兼1	
	色・音・香6	1・2前		2		○									兼1	隔年 交代で担当
	色・音・香7	1・2後		2		○									兼1	隔年
	色・音・香8	1・2前		2		○									兼1	隔年
	色・音・香9	1・2後		2		○									兼3	オムニバス・共同(一部) 隔年
	色・音・香10	1・2後		2		○									兼1	隔年
	色・音・香22	1前		2			○								兼2	オムニバス 隔年
	生活世界の安全保障1	1・2後		2		○									兼1	隔年
	生活世界の安全保障2	1・2後		2		○					1					隔年
	生活世界の安全保障3	1・2後		2		○									兼4	オムニバス・共同(一部) 隔年
	生活世界の安全保障4	1・2後		2		○									兼1	隔年
	生活世界の安全保障5	1・2前		2		○									兼1	
	生活世界の安全保障7	1・2前		2		○									兼1	
	生活世界の安全保障8	1・2後		2		○									兼1	隔年
	生活世界の安全保障9	1・2後		2		○									兼1	隔年
	生活世界の安全保障10	1・2後		2		○									兼1	隔年
	生活世界の安全保障23	1通		2				○							兼2	隔年
	生活世界の安全保障26	1・2後		2			○								兼2	オムニバス・共同(一部)
	ことばと世界1	1・2後		2		○									兼1	
	ことばと世界2	1・2前		2		○									兼1	
	ことばと世界3	1・2後		2		○									兼1	
	ことばと世界5	1・2後		2		○									兼1	交代で担当
	ことばと世界6	1・2前		2		○									兼1	交代で担当
	ことばと世界7	1・2前		2		○									兼1	隔年
	ことばと世界8	1・2前		2		○									兼1	隔年
	ことばと世界10	1・2後		2		○									兼1	
	ことばと世界11	1・2後		2		○									兼1	
	ことばと世界12	1・2後		2		○									兼1	隔年
	ことばと世界13	1・2後		2		○									兼1	
	ことばと世界27	1前		2			○								兼1	共同
	ジェンダー1	1・2前		2		○									兼1	隔年
	ジェンダー2	1・2前		2		○									兼1	隔年
	ジェンダー3	1・2前		2		○									兼1	隔年
	ジェンダー4	1・2後		2		○									兼1	隔年
	ジェンダー5	1・2後		2		○									兼1	隔年
	ジェンダー8	1・2前		2		○									兼1	隔年
	ジェンダー9	1・2前		2		○									兼1	隔年
	ジェンダー10	1・2後		2		○									兼1	隔年
小計(53科目)	-		0	106	0	○			1	1	1	1	0	兼69	隔年	
基礎講義	哲学	1・2・3・4後		2		○										
	法学I(日本国憲法)	1・2・3・4前・後		2		○						1			兼1	隔年
	法学II(法学入門)	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	政治学入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	ミクロ経済学入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	マクロ経済学入門	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	基礎微分積分学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	基礎線形代数学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	統計学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	総合コース	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	総合コース	1・2・3・4前		2		○									兼2	集中
	総合コース	1・2・3・4後		2			○								兼2	
	総合コース	1・2・3・4①		1			○								兼1	共同
	総合コース	1・2・3・4後		2			○								兼2	オムニバス
	お茶の水女子大学論	1前		2		○									兼2	オムニバス
	コンピテンシー基礎論	1・2・3・4前		2		○									兼1	オムニバス
	自然災害に対する防災・減災	1・2・3後		1		○									兼5	集中・オムニバス
	小計 (17科目)	-	0	32	0	-			0	0	0	1	0	兼23	-	
情報	情報処理演習(1)(2)	1①②	2			○									兼1	
	メディアリテラシ(1)(2)	1・2・3③④	2			○									兼1	隔年
	文理融合データサイエンスⅠ	1・2・3・4後	2			○				1					兼1	
	文理融合データサイエンスⅡ	1・2・3・4前	2			○				1					兼1	
	文理融合データサイエンスⅢ	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	文理融合データサイエンスⅣ	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	情報科学(1)(2)	1・2・3①②	2			○									兼1	
	情報処理学(1)(2)	1・2・3③④	2			○									兼1	
	プログラミング演習1	1・2・3後	2				○								兼1	
	プログラミング演習2	1・2・3後	2				○								兼1	
	コンピュータ演習1	1・2・3後	2				○								兼1	
	コンピュータ演習2	1・2・3前	2				○								兼1	
	情報学演習1	1・2・3後	2				○								兼2	
	情報学演習2	1・2・3後	2				○								兼1	
	小計 (14科目)	-	2	26	0	-			0	1	0	0	0	兼9	-	
外国語	基礎英語Ⅰ(1)(2)	1①②	2			○									兼7	共同
	基礎英語Ⅱ(1)(2)	1③④	2			○									兼7	共同
	中級英語Ⅰ(1)(2)	2①②	2			○									兼7	共同
	中級英語Ⅱ(1)(2)	2③④	2			○									兼7	共同
	英語コミュニケーションⅢ(1)(2)	2・3・4①②	2				○								兼3	隔年
	英語コミュニケーションⅤ(1)(2)	2・3・4③④	2				○								兼3	隔年
	英語プレゼンテーションⅠ(1)(2)	2・3・4①②	2				○								兼1	
	英語プレゼンテーションⅡ(1)(2)	2・3・4③④	2				○								兼1	
	グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)	3・4①②	2				○								兼1	
	グローバル・イングリッシュⅡ(1)(2)	3・4③④	2				○								兼1	
	Advanced Communication TrainingⅠ(1)(2)	1・2・3・4①②	2				○								兼5	共同
	Advanced Communication TrainingⅡ(1)(2)	1・2・3・4③④	2				○								兼5	共同
	Advanced Communication TrainingⅢ(1)(2)	1・2・3・4①②	2				○								兼2	隔年
	Advanced Communication TrainingⅣ(1)(2)	1・2・3・4③④	2				○								兼2	隔年
	Advanced Communication TrainingⅤ(1)(2)	1・2・3・4①②	2				○								兼2	隔年
	Advanced Communication TrainingⅥ(1)(2)	1・2・3・4③④	2				○								兼2	隔年
	英語コミュニケーションⅠ(1)(2)	1・2①②	2				○								兼2	共同(一部)
	英語コミュニケーションⅡ(1)(2)	1・2③④	2				○								兼2	
	上級英語Ⅰ(1)(2)	3・4①②	2				○								兼1	隔年
	上級英語Ⅱ(1)(2)	3・4①②	2				○								兼1	隔年
	上級英語Ⅲ(1)(2)	3・4③④	2				○								兼1	隔年
	上級英語Ⅳ(1)(2)	3・4③④	2				○								兼1	隔年
	ビジネス英語Ⅰ(1)(2)	3・4①②	2				○								兼1	
	ビジネス英語Ⅱ(1)(2)	3・4③④	2				○								兼1	
	時事英語Ⅰ(1)(2)	3・4①②	2				○								兼1	
	時事英語Ⅱ(1)(2)	3・4③④	2				○								兼1	
	基礎ドイツ語Ⅰ	1①	2				○								兼2	オムニバス
	基礎ドイツ語Ⅱ	1②	2				○								兼2	オムニバス
	基礎ドイツ語Ⅲ	1③	2				○								兼2	オムニバス
	基礎ドイツ語Ⅳ	1④	2				○								兼2	オムニバス
	基礎ドイツ語(応用)Ⅰ(1)(2)	1①②	2				○								兼1	
	基礎ドイツ語(応用)Ⅱ(1)(2)	1③④	2				○								兼1	
	発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)	2①②	2				○								兼1	
	発展ドイツ語Ⅱ(1)(2)	2③④	2				○								兼1	
	発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)	2①②	2				○								兼1	
	発展ドイツ語Ⅳ(1)(2)	2③④	2				○								兼1	
	基礎ドイツ語会話Ⅰ(1)(2)	1・2・3・4①②	2				○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
科目	アントレプレナーシップ演習（ディープテック編）	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	ジェンダード・イノベーション入門	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	アントレプレナーシップ演習（ジェンダード・イノベーション実践編（モノ編））	1・2・3・4③		1			○								兼1	
	アントレプレナーシップ演習（ジェンダード・イノベーション実践編（コト編））	1・2・3・4④		1			○								兼1	
	アントレプレナー演習（SDGs編（モノ編））	1・2・3・4③		1			○								兼1	
	アントレプレナー演習（SDGs編（コト編））	1・2・3・4④		1			○								兼1	
	アントレプレナー演習（DX演習（製造業編））	1・2・3・4前		1			○								兼1	集中
	アントレプレナー演習（DX演習（ドローン編））	1・2・3・4前		1			○								兼1	
	アントレプレナー演習（DX演習（PoC編））	1・2・3・4後		1			○								兼2	集中 共同
	メディアコンテンツ特別講義	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	未来開拓入門	1・2・3・4前		1			○								兼1	集中
	女性のキャリアと法制度	1・2・3・4後			2		○								兼1	
	ダイバーシティ論	1・2・3・4後			2		○								兼1	
	グローバル・リーダーシップ実習 I	1・2・3・4後		2					○						兼1	
	グローバル・リーダーシップ実習 II	1・2・3・4後		2					○						兼1	
	キャリアプランと進路選択	1・2・3・4後		2				○							兼1	
	インターンシップ I	1・2・3・4通		1					○						兼1	
	インターンシップ II	1・2・3・4通		2					○						兼2	オムニバス
	博物館概論	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	博物館資料論	2・3・4前		2			○				1				隔年	
	博物館経営論	2・3・4前		2			○								兼1	隔年
	博物館資料保存論	2・3・4後		2			○				1				隔年	
	博物館展示論	2・3・4後		2			○				1				隔年	
	博物館教育論	2・3・4後		2			○								兼1	隔年
	博物館実習	4前		3					○						兼7	オムニバス
	博物館情報・メディア論	2・3・4後		2			○				1				隔年	
	日本の伝統芸能	1・2・3・4通		2				○			1				兼1	共同
	初等解析学 I	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	初等解析学 II (1) (2)	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	初等線形代数学	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	初等代数学	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	物理学概論A	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	物理学概論B	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	基礎化学B(1) (2)	1・2・3・4①②		2			○								兼7	オムニバス
	基礎生物学A	1・2・3・4後		2			○								兼4	オムニバス
	基礎生物学B	1・2・3・4後		2			○								兼2	オムニバス
	大気・海洋科学概論	1・2・3・4後		2			○								兼1	隔年
	物理学基礎実験	1・2・3・4後		2					○						兼2	オムニバス
	化学基礎実験	1・2後		2					○						兼2	オムニバス
	生物学基礎実験	1・2・3前		2					○						兼3	集中・オムニバス
	生命情報学概論(1) (2)	1・2・3・4①②		2			○								兼1	
	計算生物学(1) (2)	1・2・3・4③④		2			○								兼2	共同
	Academic Writing	3・4前		2				○							兼2	共同
	Academic Presentation	3・4後		2				○							兼2	共同
	Summer Program in English I	1・2・3・4前		2			○								兼1	集中
	Summer Program in English II	1・2・3・4前		2			○								兼5	集中・オムニバス
	Summer Program in English III	1・2・3・4前		2			○				1				兼5	集中・オムニバス
Summer Program in English V	1・2・3・4前		2				○							兼1	集中 隔年	
グローバル・インターンシップ I	1・2・3・4後		2					○						兼1		
グローバル・インターンシップ II	1・2・3・4後		2					○						兼1		
国際交流実習 I	1・2・3通		2					○						兼1	隔年	
国際交流実習 II	1・2・3後		2					○						兼1	集中 隔年	
物理学サブリメント	1前		2			○								兼1		
生物学サブリメント	1前		2			○								兼1		
英語基礎強化ゼミ	1・2・3・4前		2			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
	TOEFL対策ゼミR/L	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	TOEFL対策ゼミS/W	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	IELTS対策ゼミR/L	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	IELTS対策ゼミS/W	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	中国語力強化ゼミⅠ	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	中国語力強化ゼミⅡ	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	小計 (68科目)	-	0	106	22		-		1	1	0	0	0		兼73	-			
外国人留学生特別科目	日本語演習ⅠA	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	日本語演習ⅠB	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	日本語演習ⅡA	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	日本語演習ⅡB	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	日本語演習ⅢA	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	日本語演習ⅢB	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	日本語演習ⅣA	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	日本語演習ⅣB	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	日本語演習ⅤA	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	日本語演習ⅤB	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	日本事情演習ⅠA	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	日本事情演習ⅠB	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	日本事情演習ⅡA	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	日本事情演習ⅡB	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	日本事情演習ⅢA	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	日本事情演習ⅢB	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	日本事情演習ⅣA	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	日本事情演習ⅣB	1・2・3・4後		2			○								兼1				
	日本事情演習ⅤA	1・2・3・4前		2			○								兼1				
	日本事情演習ⅤB	1・2・3・4後		2			○								兼1				
小計 (20科目)	-	0	40	0		-		0	0	0	0	0		兼10	-				
													主	強化	学際				
共創工学共通科目群	共創工学総論	1前	2				○			3	5	1	1		兼12	オムニバス・共同 (一部)	○		
	共創プログラミング	1後	1				○								兼1	集中	○	○	
	共創デザインPBL (LIDEE演習)Ⅰ	1・2・3・4通	1					○		3	5	1	1		兼12	オムニバス・共同	○	○	
	共創デザインPBL (LIDEE演習)Ⅱ	2・3・4通	1					○		3	5	1	1		兼12	オムニバス・共同	○	○	
	デザイン思考とロジックモデル	2前	2					○				1			兼1	オムニバス・共同 (一部)	○	○	
	共創工学特別講義	1・2・3・4通	1					○		1					兼2	オムニバス	○	○	
	知的財産論	2前	1					○							兼1		○	○	
	技術と倫理	2前	1					○							兼1		○	○	
	共創工学フィールドワーク	2・3・4通	1					○		3	5	1	1		兼12	オムニバス・共同	○	○	
	共創インターンシップⅠ	2・3・4通	2									1			兼1	共同	○	○	
	共創インターンシップⅡ (建築)	2・3・4通	2												兼2	共同	○	○	
	卒業研究演習	4前	2					○		3	5	1	1		兼12	共同	○		
小計 (12科目)	-	6	11	0		-			3	5	1	1	0	兼13	-				
文化情報工学 (人文学系)	哲学基礎論	1・2前	2				○						1			オムニバス	○		
	倫理学基礎論	1・2前	2				○								兼2	共同	○		
	美術史基礎論	1・2前	2				○								兼2	オムニバス	○		
	日本史概説	1・2後	2				○								兼2	オムニバス	○		
	アジア史概説	1・2後	2				○								兼2	オムニバス	○		
	西洋史概説	1・2前	2				○								兼2	オムニバス	○		
	自然と人間	1・2前	2				○								兼2	共同	○		
	人間と空間	1・2後	2				○		1						兼1	オムニバス・共同 (一部)	○		
	日本文学概説	1・2前	2				○								兼1		○		
	日本語学通論	1・2前	2				○								兼1		○		
	中国現代文学史	1・2後	2				○								兼1		○		
	中国古典文学史 (宋～清)	1・2後	2				○								兼1		○		
	英語圏言語文化入門 (1) (2)	1・2①②	2				○								兼1		○		
	言語学入門Ⅰ (1) (2)	1・2①②	2				○								兼1		○		
	言語学入門Ⅱ	1・2後	2				○								兼1		○		
	ヨーロッパ言語文化論Ⅰ	1・2前	2				○								兼1		○		
	ヨーロッパ言語文化論Ⅱ	1・2後	2				○								兼1		○		
	日本語教育学概論Ⅰ	1・2前	2				○								兼1		○		
	人間と発達	1・2前	2				○								兼1		○		
	社会学総論	1・2前	2				○								兼1		○		
	子ども学総論	1・2前	2				○								兼4	オムニバス	○		
	舞踊学概論	1前	2				○								兼3	オムニバス	○		
	音楽学概論	1前	2				○								兼1		○		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
基礎科目群 (情報工学系)	グローバル文化学総論	1・2前		2		○									兼4	オムニバス	○			
	文化情報工学総論	1前	2			○			3	5	1	1				オムニバス・共同 (一部)	○			
	データサイエンス (基礎)	1後	2			○				1							○			
	データサイエンス (中級)	2前	2			○				1							○			
	データサイエンス (上級)	2後	2			○				1							○			
	機械学習	3前	2			○				1							○			
	データマイニング	3後	2			○				1		1				オムニバス・共同 (一部)	○			
基礎科目群 (情報工学系)	文化情報工学基礎演習	1前	2				○		2	1	1				兼2	オムニバス	○			
	工学基礎数学	1前		2			○								兼2	オムニバス	○			
	工学基礎解析学	1後		2			○								兼2	オムニバス	○			
	設計製図基礎演習	1後		2			○								兼2	オムニバス・共同 (一部)	○			
	インターネット工学	1後	2				○			1							○			
	コンピュータシステム序論	1後		2			○		1								○		○	
	データ構造とアルゴリズム	1・2後		2			○								兼1		○		○	
	数理基礎論	1・2前		2			○								兼1		○		○	
	確率序論	1後		2			○				1						○		○	
	コンピュータアーキテクチャI	2前		2			○								兼1		○		○	
	コンピュータアーキテクチャII	2後		2			○								兼1		○		○	
	コンピュータネットワークI	2後		2			○			1					兼1		○		○	
	マルチメディア	2後		2			○										○		○	
	文化情報デザイン工学	2後	2				○					1					○		○	
データベース工学	3前	2				○				1						○		○		
情報と職業	3・4前		2			○			1						隔年	○		○		
情報倫理	3・4前		2			○								兼1	隔年	○		○		
小計 (47科目)	-		20	74	0		—		3	5	1	1	0	兼49		—				
発展科目群 (人文情報学系)	歴史情報学	3前		2			○				1						○			
	歴史情報学演習	3後		2				○			1						○			
	地理情報学	3前		2			○		1								○			
	地理情報学演習	3後		2				○			1						○			
	言語情報学	3前		2			○				1						○			
	言語情報学演習	3後		2				○			1						○			
	文化情報学	3前		2			○				1						○			
	文化情報学演習	3後		2				○			1						○			
	思想情報学	3前		2			○						1				○			
	思想情報学演習	3後		2				○					1				○			
芸術情報学	3前		2			○								兼1		○				
芸術情報学演習	3後		2				○							兼1		○				
発展科目群 (情報工学系)	データ解析序論	2後		2			○								兼1		○		○	
	統計学演習	2・3・4後		2				○							兼1		○		○	
	センサーと人間工学	2後		2			○								兼1	隔年	○		○	
	応用統計学演習	3後		2				○			1						○		○	
	コンピュータビジョン	3後		2			○		1								○		○	
	コンピュータグラフィックス	3前		2			○								兼1		○		○	
	ヒューマンインターフェイス	3前		2			○								兼1		○		○	
	文化情報デザイン演習	3後		2				○				1					○		○	
データベース設計演習	3後		2				○				1					○		○		
小計 (21科目)	-		0	42	0		—		3	4	1	1	0	兼5		—				
共創工学応用科目群 (文化情報工学)	データマイニング演習	4前	2				○			1		1			共同		○			
	文化情報学研究	4前		2			○			1							○		○	
	テキストアナリティクス研究	4前		2			○			1							○		○	
	データベース研究	4前		2			○			1							○		○	
	文化情報デザイン研究	4前		2			○				1						○		○	
	文化情報CGV研究	4前		2			○		1								○		○	
	文化情報統計数理研究	4前		2			○			1							○		○	
	卒業研究	4通	8				○		3	5	1	1			共同		○			
小計 (8科目)	-		10	12	0		—		3	5	1	1	0	兼0		—				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
人間環境工学 学際プログラム	共創インターンシップII (建築)	2・3・4通		2				○							兼2	共同				○
	設計製図基礎演習	1後		2				○							兼2	オムニバス・共同 (一部)				○
	住居学概論	1後		2			○								兼2	オムニバス				○
	建築一般構造	1後		2			○								兼1					○
	建築環境計画論	2前		2			○								兼1					○
	物理化学	2前		2			○								兼1					○
	設計製図演習I	2前		2				○							兼2	オムニバス				○
	BIM演習	2前		2				○							兼3	オムニバス・共同 (一部)				○
	環境心理と調査法	2後		2			○								兼2	オムニバス・共同 (一部)				○
	設計製図演習II	2後		2				○							兼2	オムニバス・共同 (一部)				○
	デジタルファブリケーション演習	3前		2				○							兼2	オムニバス・共同 (一部)				○
	設計製図演習III	3後		2				○							兼2	オムニバス・共同 (一部)				○
	身体形質と文化	1前		2			○								兼1					○
	基礎構造力学	1後		2			○								兼1					○
	日本建築史	2前		2			○								兼1	隔年				○
	建築構法計画	2前		1			○								兼1					○
	建築環境工学	2前		2			○								兼1					○
	建築意匠論	2前		2			○								兼1	隔年				○
	都市デザイン	2前		2			○								兼1	隔年				○
	西洋建築史	2後		2			○								兼1	隔年				○
	応用建築構造	2後		2			○								兼1	隔年				○
	センサーと人間工学	2後		2			○								兼1	隔年				○
	材料とデザイン	2後		2			○								兼1	隔年				○
	建築材料学	2後		2			○								兼1	隔年				○
	建築設備学	2後		2			○								兼1	隔年				○
	建築法規	3前		2			○								兼1					○
	水環境工学	3前		2			○								兼1					○
	生体材料学	3前		2			○								兼1					○
	生産とデザイン	3前		2			○								兼1					○
	生活材料物性	3後		2			○								兼1					○
	システム工学	3後		2			○								兼1	隔年				○
小計 (31科目)		-	0	61	0			-	0	0	0	0	0	0	兼26					-
合計 (383科目)			-	40	691	22		-	3	5	1	1	0	0	兼270					-
学位又は称号		学士 (文化情報工学)		学位又は学科の分野				工学関係、文学関係												
										授業期間等										
					1学年の学期区分					2学期					4学期					
					1学期の授業期間					15週					8週					
					1時限の授業時間					90分					90分					
卒業要件及び履修方法																				
卒業に必要な履修単位数は、コア (教養) 科目34単位、専門教育科目74単位、自由に選択して履修する科目16単位、計124単位である。																				
専門教育科目については、複数プログラム選択履修制度により、第1のプログラムとして、文化情報工学主プログラム54単位 (必修36単位/選択必修12単位 (基礎科目 (人文学系) 24科目から2科目4単位、及び発展科目 (人文情報学系) 12科目から4科目8単位) /選択6単位) を履修する。																				
第2のプログラムとして、文化情報工学強化プログラム20単位または人間環境工学学際プログラム、他学部が開設する副プログラム・学際プログラムから選択したプログラム20単位を履修する。																				
コア科目中、外国語は12単位を必修とする。																				
文化情報工学主プログラム及び強化プログラムの対象となる科目は、本表の備考欄に示した。なお、両プログラムとも対象となっている科目は、学生の第2のプログラムの選択に応じて、いずれか一方の対象とすることができる。																				
人間環境工学学際プログラムの対象となる科目は、文化情報工学科科目の後に一覧を示した。																				
他学部が開設する副プログラム・学際プログラムを選択する場合は、哲学・倫理学・美術史・比較歴史学、地理環境学、日本語・日本文学、中国語圏言語文化、英語圏言語文化、仏語圏言語文化、日本語教育、教育学・子ども学、社会学、舞踊教育学、音楽表現、グローバル文化学、生活文化学、情報科学の副プログラム・学際プログラムのいずれかを履修する。																				
(履修科目の登録の上限：46 単位程度 (年間))																				

教 育 課 程 等 の 概 要

（大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程 比較社会文化学専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員 (助手を除く)					
日本語 日本文学	日本語史特論	1・2前			2		○				1									
	日本語史演習	1・2前			2			○				1								
	日本語資料論特論	1・2後			2			○				1								
	日本語資料論演習	1・2後			2				○			1								
	現代日本語学特論	1・2前			2			○				1								
	現代日本語学演習	1・2前			2				○				1							
	日本語表現論特論	1・2後			2			○				1								
	日本語表現論演習	1・2後			2				○			1								
	日本中古文学特論	1・2前			2			○					1							
	日本中古文学演習	1・2前			2				○				1							
	日本中古文学表現史論	1・2後			2			○					1							
	日本中古文学表現史論演習	1・2後			2				○				1							
	日本中世文学特論	1・2前			2					○		1								
	日本中世文学演習	1・2前			2					○		1								
	日本中世文学表現史論	1・2後			2					○		1								
	日本中世文学表現史論演習	1・2後			2					○		1								
	日本近世文学特論	1・2前			2			○					1							
	日本近世文学演習	1・2前			2				○				1							
	日本近世出版文化特論	1・2後			2			○					1							
	日本近世出版文化演習	1・2後			2				○				1							
	日本近代文学特論	1・2前			2			○				1								
	日本近代文学演習	1・2前			2				○				1							
	日本近代メディア研究特論	1・2後			2			○					1							
	日本近代メディア研究演習	1・2後			2				○				1							
	日本現代文学特論	1・2前			2			○							1					
	日本現代文学演習	1・2前			2				○						1					
	日本近現代詩歌論特論	1・2後			2			○							1					
	日本近現代文学構造分析論演習	1・2後			2				○						1					
	日本語文化特論	1・2後			2			○				1								
小計（29科目）		—	—	2	56	0	—	—	—	2	4	0	1	0	0			—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
アジア言語文化学	東アジア比較言語文化論（古典）	1・2後	/		2		○			1								
	東アジア比較言語文化論演習（古典）	1・2後			2			○		1								
	中国古典文学思想論	1・2前			2		○			1								
	現代中国語圏文学特論	1・2前			2		○				1							
	近代中国語圏文学特論	1・2後			2		○				1							
	現代中国語圏文学演習	1・2前			2			○			1							
	近代中国語圏文学演習	1・2後			2			○			1							
	中国古典語学特論	1・2前			2			○						1				
	中国古典語学演習	1・2前			2			○						1				
	中国古典文献学	1・2後			2			○						1				
	東アジア比較言語文化論（近現代）	1・2前			2			○			1							
	東アジア比較言語文化論演習（近現代）	1・2後			2			○			1							
	中国言語表現論演習	1・2前			2				○		1							
	現代中国語学演習	1・2後			2				○		1							
	中国語教育実践方法論（基礎）	1・2前			2			○								1		
	中国語教育実践方法論（応用）	1・2後			2			○			1							
	アジア民俗文化論	1・2後			2			○						1				
	アジア言語芸術論	1・2前			2				○		1							
	中国言語文化特論	1・2前			2				○		2			1				共同
小計（19科目）	—	—	—	2	36	0	—	—	2	1	0	1	0	1	—	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
英語圏・仏語圏言語文化学	英文学特論（批評研究）	1・2前			2		○			1							
	英文学演習（作家研究）	1・2後			2			○		1							
	英語圏言語文化特論	1・2前			2		○			1							
	英語圏言語文化演習	1・2後			2			○		1							
	英語圏文学表象論	1・2前			2		○						1				
	英語圏文学表象論演習	1・2後			2			○					1				
	英語圏テキスト文化論	1・2前			2		○						1				
	英語圏テキスト文化論演習	1・2後			2			○					1				
	米文学特論（批評研究）	1・2前			2		○				1						
	米文学演習（作家研究）	1・2後			2			○			1						
	英語圏文学・文化特論	1・2前			2		○						1				
	英語圏文学・文化演習	1・2後			2			○					1				
	英語学特論（文法論）	1・2前			2		○				1						
	英語学演習（形態論）	1・2後			2			○			1						
	英語学特論（統語論）	1・2前			2		○				1						
	英語学演習（統語論）	1・2後			2			○			1						
	英語学特論（語用論）	1・2前			2		○						1				
	英語学演習（語用論）	1・2後			2			○					1				
	英語学特論（意味論）	1・2前			2		○						1				
	英語学演習（意味論）	1・2後			2			○					1				
	英語学特論（第一言語習得）	1・2前			2		○				1						
	英語学演習（第一言語習得）	1・2後			2			○			1						
	対照言語分析特論	1・2前			2		○				1						
	対照言語分析演習	1・2後			2			○			1						
	英語教育方法論研究	1・2後			2		○					1					
	英語教育方法論演習	1・2後			2			○				1					
	第二言語習得論研究	1・2前			2		○					1					
	第二言語習得論演習	1・2前			2			○				1					
	近代仏文学研究	1・2前			2		○					1					
	近代仏文学研究演習	1・2前			2			○				1					
	近代仏文学特論	1・2後			2		○					1					
	近代仏文学特別演習	1・2後			2			○				1					
	仏語言語表現論	1・2後			2		○					1					
	仏語言語表現論演習	1・2後			2			○				1					
	仏語言語文化論	1・2前			2		○				1						
	仏語言語文化論演習	1・2後			2			○			1						
	仏語圏比較文化論	1・2前			2		○				1						
	仏語圏比較文化論演習	1・2後			2			○			1						
	仏語圏比較社会論	1・2後			2		○				1						
	仏語圏比較社会論演習	1・2後			2			○			1						
	西欧言語芸術論	1・2後			2		○					1					
	西欧言語芸術論演習	1・2後			2			○				1					
	独語圏文学特論	1・2前			2		○					1					
	独語圏文学演習	1・2後			2			○				1					
	近代独文学論	1・2前			2		○					1					
	近代独文学演習	1・2後			2			○				1					
	英語圏・仏語圏言語文化特論	2通			2		○				3	4		3	0		共同
小計（47科目）		—	—	2	92	0	—			3	4	0	3	0	0	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)以外の教員			
日本語教育	応用日本語学研究法実習	1前	—	2			○			1								
	日本語教育学研究特論	1・2前		2		○											1	
	日本語教育学研究演習	1・2前		2			○										1	
	日本語教育学特論	1・2前		2			○							1				
	日本語教育学演習	1・2後		2				○							1			
	言語教育方法論特論	1・2前		2				○							1			
	言語教育方法論演習	1・2後		2					○						1			
	日本語教育方法論演習	1・2後		2					○				1					
	言語分析学特論	1・2前		2					○				1					
	言語分析学演習	1・2後		2						○			1					
	日本語コミュニケーション特論	1・2前		2				○										1
	日本語コミュニケーション演習	1・2後		2					○						1			
	日本語教育実習	1・2前		2						○					1			
	第二言語習得特論	1・2前		2						○			1					
	第二言語習得演習	1・2後		2							○		1					
	言語学習論特論	1・2前		2						○			1					
	言語学習論演習	1・2後		2							○		1					
	日本語習得論特論	1・2前		2				○										1
	日本語習得論演習	1・2後		2					○			1						
	多文化間心理教育学特論	1・2前		2						○				1				
	多文化間心理教育学演習	1・2後		2							○			1				
	異文化間コミュニケーション特論	1・2前		2					○					1				
	異文化間コミュニケーション演習	1・2後		2						○				1				
	異文化間教育特論	1・2前		2					○					1				
	異文化間教育演習	1・2後		2						○				1				
	日本語言語科学特論	1・2前		2							○							1
	言語教育統計学	1・2前		2								○						1
	言語教育統計学演習	1・2後		2									○					1
	質的研究法演習	1・2後		2										○		1		
	言語教育学特論	1・2前		2										○		1		
	言語教育学演習	1・2後		2											○	1		
	社会言語学研究特論	1・2前		2												○	1	
	社会言語学研究演習	1・2後		2													○	1
小計 (33科目)	—	—	—	2	64	0	—	—	—	0	1	2	1	0	6	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員			
思想文化学	哲学特論（基礎）	1・2前			2			○			1								
	哲学特論（応用）	1・2後			2			○			1								
	哲学原論（基礎）	1・2前			2				○			1							
	哲学原論（応用）	1・2後			2				○			1							
	人文学基礎論	1・2前			2			○						1					
	人文学基礎論演習	1・2後			2				○						1				
	形而上学特論	1・2前			2			○							1				
	言語哲学演習（基礎）	1・2前			2				○						1				
	言語哲学演習（応用）	1・2後			2				○						1				
	認識論特論	1・2後			2				○						1				
	科学哲学演習（基礎）	1・2前			2				○						1				
	科学哲学演習（応用）	1・2後			2				○						1				
	倫理思想史特論（理論）	1・2前			2				○		1								
	倫理思想史特論（応用）	1・2後			2				○		1								
	倫理学原論（理論）	1・2前			2				○					1					
	倫理学原論（応用）	1・2後			2				○					1					
	倫理学資料演習（理論）	1・2前			2				○		1								
	倫理学資料演習（応用）	1・2後			2				○		1								
	日本文化の解釈学IV	1・2前			2					○	1	1			2				共同
	日本文化の解釈学V	1・2前			2					○	1	1			2				共同
	思想文化学研究法	1・2前			2					○	1	1			2				共同
小計（21科目）	—	—	—	2	40	0	—	—	—	1	1	0	2	0	0	—	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員			
歴史文化学	アジア政治文化特論	1・2前			2			○			1							
	アジア政治文化演習	1・2後			2			○			1							
	アジア社会文化特論	1・2前			2		○				1							
	アジア社会文化演習	1・2後			2			○			1							
	比較アジア社会文化特論	1・2前			2			○			1							
	比較アジア社会文化演習	1・2後			2			○			1							
	比較アジア政治文化論	1・2前			2			○			1							
	比較アジア政治文化演習	1・2後			2			○			1							
	日本社会史特論	1・2前			2			○			1							
	日本社会史料特論	1・2前			2			○			1							
	日本社会史演習	1・2後			2			○			1							
	日本社会史料演習	1・2後			2			○			1							
	史料管理論特論	1・2前			2		○			1								
	史料管理論演習	1・2後			2			○			1							
	歴史史料論	1・2前			2			○			1							
	比較歴史史料学	1・2前			2			○			1							
	歴史史料論演習	1・2後			2			○			1							
	比較歴史史料学演習	1・2後			2			○			1							
	伝統芸能文化論特論	1・2前			2		○				1							
	伝統芸能文化論演習	1・2後			2			○			1							
	伝統芸能文化研究	1・2前			2			○			1							
	日本政治経済史特論	1・2前			2			○			1							
	日本政治経済史料特論	1・2前			2			○			1							
	日本政治経済史演習	1・2後			2			○				1						
	日本政治経済史料演習	1・2後			2			○				1						
	日本文化史特論	1・2前			2			○				1						
	日本文化史料特論	1・2前			2			○				1						
	日本文化史演習	1・2後			2			○				1						
	日本文化史料演習	1・2後			2			○				1						
	西洋中世史特論	1・2前			2			○			1							
	西洋中世史演習	1・2後			2			○			1							
	西洋近世史特論	1・2前			2			○			1							
	西洋近世史料特論	1・2前			2			○			1							
	西洋近世史演習	1・2後			2			○			1							
	西洋近世史料演習	1・2後			2			○			1							
	西洋近現代史特論	1・2前			2			○					1					
	西洋近現代史料特論	1・2前			2			○					1					
	西洋近現代史演習	1・2後			2			○					1					
	西洋近現代史料演習	1・2後			2			○					1					
	西洋美術史理論特論(近代)	1・2後			2			○				1						
	西洋美術史理論特論(現代)	1・2後			2			○				1						
	西洋美術史特論(近代)	1・2前			2			○				1						
	西洋美術史特論(現代)	1・2前			2			○				1						
	西洋美術史理論演習(近代)	1・2後			2			○			1							
	西洋美術史理論演習(現代)	1・2後			2			○			1							
	西洋美術史演習(近代)	1・2前			2			○				1						
	西洋美術史演習(現代)	1・2前			2			○					1					
	東洋美術史特論(基礎)	1・2前			2			○			1							
	東洋美術史特論(応用)	1・2後			2			○			1							
	日本美術史特論(基礎)	1・2前			2			○				1						
	日本美術史特論(応用)	1・2後			2			○				1						
	東洋美術史演習(基礎)	1・2通			2			○			1							
	東洋美術史演習(応用)	1・2通			2			○			1							
	日本美術史演習(基礎)	1・2前			2			○				1						
	日本美術史演習(応用)	1・2後			2			○				1						
	歴史文化学基礎論	1・2前			2	2		○			1	7						共同
	歴史・地理特別演習(基礎)	1・2後			2			○			1							
	歴史・地理特別演習(応用)	1・2後			2			○			1							
小計(58科目)		-	-	2	114	0		-		1	7	1	1	0	0		-	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
生活文化学	日本服飾文化論	1・2前	/		2		○				1							
	日本服飾文化論特論	1・2前			2		○				1							
	日本服飾文化論演習	1・2後			2			○			1							
	西洋服飾文化論	1・2前			2		○				1							
	西洋服飾文化論特論	1・2前			2		○				1							
	西洋服飾文化論演習	1・2前			2			○			1							
	民俗文化論特論	1・2前			2		○			1								
	民俗文化論研究	1・2後			2		○			1								
	民俗文化論演習	1・2前			2			○		1								
	比較文化特論	1・2後			2		○			1								
	生活造形特論	1・2前			2		○			1								
	生活芸術論演習	1・2後			2		○			1								
	芸術文化特論	1・2後			2		○									1		
	芸術文化特論演習	1・2後			2			○								1		
生活文化特論演習	1・2前		2			○		2	2							共同		
小計(15科目)	—	—	—	2	28	0	—	—	—	2	2	0	0	0	2	—	—	
舞踊・表現行動学	舞踊表現学特論	1・2前	/		2		○				1							
	舞踊表現学演習	1・2後			2			○			1							
	舞踊芸術学特論	1・2前			2		○						1					
	舞踊方法論演習	1・2前			2			○					1					
	民族舞踊学特論	1・2後			2				○		1							
	民族舞踊方法論演習	1・2前			2			○			1							
	舞踊文化特論	1・2前			2		○									1		
	現代スポーツ論特論	1・2前			2		○			1								
	スポーツマネージメント特論	1・2前			2		○			1								
	スポーツマネージメント演習	1・2前			2			○		1								
	表現行動論特論	1・2後			2		○									1		
	表現行動科学特論	1・2後			2				○	1								
	表現行動科学実験演習	1・2前			2			○		1								
小計(13科目)	—	—	—	2	24	0	—	—	—	2	2	0	1	0	2	—	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員			
音楽表現学	演奏学特論	1・2前	/		2			○			1					1		
	演奏学演習	1・2後			2			○			1					1		
	演奏学表現方法論	1・2前				2			○			1					1	
	演奏学表現演習	1・2前				2			○			1					1	
	ピアノ演奏学特論(近代)	1・2前				2			○			1						
	ピアノ演奏学特論(現代)	1・2後				2			○			1						
	ピアノ演奏学演習	1・2後				2			○			1						
	ピアノ表現方法論	1・2前				2		○				1						
	ピアノ表現方法論演習	1・2後				2			○			1						
	ピアノ表現演習	1・2前				2			○			1						
	声楽演奏学特論	1・2前				2			○			1						1
	声楽演奏学演習	1・2後				2			○			1						1
	声楽表現方法論	1・2前				2			○			1						1
	声楽表現方法論演習	1・2後				2			○			1						1
	声楽表現演習	1・2後				2			○			1						
	音楽表象文化特論	1・2前				2			○					1				
	音楽表象文化演習	1・2後				2			○					1				
	音楽学特論	1・2前				2			○					1				
	音楽学演習	1・2後				2			○					1				
	音楽研究方法論	1・2前			2				○			1						
	音楽文献資料論	1・2前			2				○			1						
	音楽研究方法論演習	1・2後				2			○			1						
	音楽文献資料論演習	1・2後				2			○			1						
	音楽学特別演習(基礎)	1・2前				2			○					1				
	音楽学特別演習(応用)	1・2後				2			○					1				1
	音楽文化学特別演習(基礎)	1・2前				2			○			1						
	音楽文化学特別演習(応用)	1・2後				2			○			1						
音楽史研究	1・2前			2			○			1								
音楽史研究演習	1・2後			2			○			1								
音楽文化史研究	1・2前			2			○			1								
音楽文化史研究演習	1・2後			2			○			1								
音楽文化演習	1・2前			2			○			2			1					
小計(32科目)	—	—	—	4	60	0	—	—	—	2	0	0	1	0	3	—		
専攻共通	比較社会文化総論	1・2前	/		2			○			15	23	2	10			共同	
	特別研究	2通			8			○			15	19	1	3			共同	
	特別講義(博士前期課程)	1・2後				2			○								1	
	計量文献学特論	1・2前				2			○				1					
	計量文献学演習	1・2後				2			○				1					
小計(5科目)	—	—	—	10	6	0	—	—	—	15	23	3	12	0	1			
合計(272科目)		—	—	30	520	0	—	—	—	15	23	3	12	0	15			
学位又は称号		修士(人文科学、社会科学、生活科学、学術)			学位又は学科の分野			文学関係、教育学・保育学関係、社会学関係、家政関係、音楽関係										
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等								
当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。なお、この制度により学位申請する場合は、修士論文題目届提出の際に指導教員の推薦書を添付すること。また、修士論文提出の際に業績一覧を併せて提出すること。										1学年の学期区分			2学期	4学期				
										1学期の授業期間			15週			8週		
										1時限の授業の標準時間			90分			90分		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要（共同学科等）

（奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科博士前期課程 生活工学共同専攻）

（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程 生活工学共同専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	開設大学	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員
基礎科目群	生活工学概論A	1・2後	/	奈良女子大学	1			○			10	3	2	1			オムニバス
	生活工学概論B	1・2前		お茶の水女子大学	1			○			5	4	1	1			オムニバス
	生活工学計測論（センサ工学）	1・2後		奈良女子大学		1		○			2	1					共同
	生活工学計測論（電子・制御工学）	1・2後		お茶の水女子大学		1			○		1						共同
	生活工学計測論（生活空間）	1・2前		奈良女子大学		1		○			2						共同
	生活工学材料解析論	1・2前		奈良女子大学		1		○			1	2					共同
	研究者倫理	1・2前		お茶の水女子大学		1		○			5	4	1	1			共同
	技術者倫理	1・2後		奈良女子大学		1		○			10	3	2	1			共同
	知的財産論	1・2前		お茶の水女子大学			1		○							1	
小計（9科目）	—	—	—	—	4	5	0	—	—	15	7	3	2		1	—	
専門科目群	繊維構造論	1・2後	奈良女子大学		2			○			1						
	繊維構造論演習	1・2後	奈良女子大学		2				○		1						
	分子デザイン論	1・2前	奈良女子大学		2			○			1						
	分子デザイン論演習	1・2後	奈良女子大学		2			○			1						
	繊維構造解析論	1・2前	奈良女子大学		2			○				1					
	繊維構造解析論演習	1・2後	奈良女子大学		2				○			1					
	衣環境学特論	1・2前	お茶の水女子大学		2			○						1			
	衣環境学演習	1・2後	お茶の水女子大学		2				○					1			
	生活メディア工学	1・2後	奈良女子大学		2			○			1						
	生活メディア工学演習	1・2前	奈良女子大学		2				○		1						
	データ解析論	1・2前	奈良女子大学		2			○			1						
	データ解析論演習	1・2後	奈良女子大学		2			○			1						
	衣環境情報処理論	1・2前	奈良女子大学		2				○			1					
	衣環境情報処理論演習	1・2後	奈良女子大学		2				○			1					
	生活医用福祉工学	1・2後	お茶の水女子大学		2			○			1						
	生活生体工学	1・2後	お茶の水女子大学		2			○			1						
	環境人間工学特論	1・2後	奈良女子大学		2			○			1						
	環境人間工学演習	1・2後	奈良女子大学		2				○		1						
	住環境管理論	1・2前	奈良女子大学		2			○								1	
	住環境管理論演習	1・2後	奈良女子大学		2				○							1	
	居住空間再生論	1・2後	奈良女子大学		2			○			1						
	居住空間再生論演習	1・2前	奈良女子大学		2				○		1						
	建築意匠特論	1・2前	お茶の水女子大学		2			○			1						
	空間デザイン演習	1・2後	お茶の水女子大学		2				○		1						
	建築環境計画特論	1・2前	お茶の水女子大学		2			○			1						
	施設デザイン演習	1・2後	お茶の水女子大学		2				○		1						
	居住空間環境学特論	1・2前	お茶の水女子大学		2			○				1					
	都市デザイン特論	1・2前	お茶の水女子大学		2			○				1					
	都市デザイン演習	1・2後	お茶の水女子大学		2				○			1					
	都市・建築デザイン特論	1・2前	奈良女子大学		2			○			1						
	都市・建築デザイン演習	1・2後	奈良女子大学		2				○		1						
	環境デザイン演習	1・2後	お茶の水女子大学		2				○			1					
	環境工学特論	1・2前	お茶の水女子大学		2			○			1						
環境工学演習	1・2後	お茶の水女子大学		2				○		1							
人体計測学特論	1・2前	お茶の水女子大学		2			○			1							
第四紀学特論	1・2前	お茶の水女子大学		2			○			1							
身体行動計測特論	1・2前	お茶の水女子大学		2			○				1						
身体行動計測演習	1・2後	お茶の水女子大学		2				○			1						
システムデザイン特論	1・2前	お茶の水女子大学		2			○					1					
システムデザイン実践	1・2後	お茶の水女子大学		2				○				1					
生体材料工学特論	1・2前	お茶の水女子大学		2			○			1							
生体材料工学演習	1・2後	お茶の水女子大学		2				○		1							
ヒューマンメディア情報論	1・2前	奈良女子大学		2			○					1					
ヒューマンメディア情報論演習	1・2後	奈良女子大学		2				○				1					
ヒューマンキネティクス特論	1・2後	奈良女子大学		2			○						1				
ヒューマンキネティクス演習	1・2後	奈良女子大学		2				○					1				
機能性分子解析論	1・2前	奈良女子大学		2			○						1				
機能性分子解析論演習	1・2後	奈良女子大学		2				○					1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	開設大学	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
	環境・エネルギー材料構造論	1・2前		奈良女子大学		2		○				1					
	環境・エネルギー材料構造論演習	1・2後		奈良女子大学		2			○			1					
	生体機能調節論	1・2後		奈良女子大学		2		○				1					
	生体機能調節論演習	1・2後		奈良女子大学		2			○			1					
	認知神経科学論	1・2前		奈良女子大学		2		○				1					
	認知神経科学論演習	1・2後		奈良女子大学		2			○			1					
	小計 (54科目)	—	—	—	0	108						13	7	2	3	0	1
専門応用科目群	生活工学デザインワークショップ (LIDEE)	1・2通		お茶の水女子大学		2			○			5	4	1	1		共同
	Project Based Learning A	1・2前		奈良女子大学		2			○			10	3	2	1		隔年開講
	Project Based Learning B	1・2通		お茶の水女子大学		2			○			5	4	1	1		共同
	生活工学創発演習 (基礎) A I	1・2後		奈良女子大学		1			○			10	3	2	1		共同
	生活工学創発演習 (基礎) A II	1・2後		奈良女子大学		1			○			10	3	2	1		共同
	生活工学創発演習 (発展) A I	1・2前		奈良女子大学		1			○			10	3	2	1		共同
	生活工学創発演習 (発展) A II	1・2後		奈良女子大学		1			○			10	3	2	1		共同
	生活工学創発演習 (基礎) B I	1・2前		お茶の水女子大学		1			○			5	4	1	1		共同
	生活工学創発演習 (基礎) B II	1・2後		お茶の水女子大学		1			○			5	4	1	1		共同
	生活工学創発演習 (発展) B I	1・2前		お茶の水女子大学		1			○			5	4	1	1		共同
	生活工学創発演習 (発展) B II	1・2後		お茶の水女子大学		1			○			5	4	1	1		共同
	生活空間特別演習	1・2前		奈良女子大学		1			○			2					隔年開講
	生活メディア情報処理演習	1・2後		奈良女子大学		1			○			2	1				隔年開講
	生活工学モデリング演習	1・2後		お茶の水女子大学		1			○			1					共同
生活工学インターンシップ	1・2通		お茶女/奈良女		2				○		15	7	3	2		共同	
住環境学インターンシップ I	1・2通		お茶女/奈良女		2				○		3					共同	
住環境学インターンシップ II	1・2通		お茶女/奈良女		2				○		3					共同	
生活工学特別研究 (修士)	2通		お茶女/奈良女		10			○			14	7	2	1		1	共同
小計 (18科目)	—	—	—	—	10	23	0					15	7	3	2	0	1
合計 (81科目)	—	—	—	—	14	136	0					15	7	3	2	0	2
学位	修士 (生活工学、工学、学術)			学位の分野			工学関係、家政関係										
卒業・修了要件及び履修方法				開設大学	開設単位数 (必修)			授業期間等									
当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。また、相手大学の開講科目を専門科目群より4単位以上履修した上で、合計10単位以上履修すること。 ただし、優れた研究業績を上げた者と認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。なお、この制度により学位申請する場合は、修士論文題目届提出の際に指導教員の推薦書を添付すること。また、修士論文提出の際に業績一覧を併せて提出すること。				お茶の水女子大学	57 (2)			1 学年の学期区分		2 学期		4 学期					
				奈良女子大学	77 (2)			1 学期の授業期間		1 5 週		8 週					
				共同開講	16 (10)			1 時限の授業の標準時間		9 0 分		9 0 分					

(注)

- 1 共同学科等を設置する場合は、別記様式第2号 (その2の1) に代えて、この書類を作成すること。
- 2 共同学科等を設置する場合は、この書類に加え、別記様式第2号 (その2の1) の例により、構成大学別のものを作成すること。
- 3 学部等、研究科等の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開講の届出を行うおうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 4 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 5 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 6 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。
- 7 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 8 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 9 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくはは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 10 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科若しくは研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 11 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員 (助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員 (助手を除く)」と読み替えること。
- 12 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要																
（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程 生活工学共同専攻）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
基礎科目群	生活工学概論B	1・2前	/	1			○			5	4	1	1			オムニバス 共同
	生活工学計測論（電子・制御工学）	1・2後		1				○		1						
	研究者倫理	1・2前		1				○		5	4	1	1			
	知的財産論	1・2前		1				○							1	
	小計（4科目）	—		—	2	2	0	—	—	—	5	4	1	1	0	
専門科目群	衣環境学特論	1・2前	/		2			○						1		
	衣環境学演習	1・2後		2				○						1		
	生活医用福祉工学	1・2後		2				○		1						
	生活生体工学	1・2後		2				○		1						
	建築意匠特論	1・2前		2				○		1						
	空間デザイン演習	1・2後		2					○	1						
	建築環境計画特論	1・2前		2				○		1						
	施設デザイン演習	1・2後		2					○	1						
	居住空間環境学特論	1・2前		2				○			1					
	都市デザイン特論	1・2前		2				○			1					
	都市デザイン演習	1・2後		2					○		1					
	環境デザイン演習	1・2後		2					○		1					
	環境工学特論	1・2前		2				○		1						
	環境工学演習	1・2後		2					○	1						
	人体計測学特論	1・2前		2				○		1						
	第四紀学特論	1・2前		2				○		1						
	身体行動計測特論	1・2前		2				○			1					
	身体行動計測演習	1・2後		2					○		1					
	システムデザイン特論	1・2前		2				○				1				
	システムデザイン実践	1・2後		2					○				1			
	生体材料工学特論	1・2前		2				○			1					
	生体材料工学演習	1・2後		2					○		1					
小計（22科目）	—	—	0	44	0	—	—	—	5	4	1	1	0	0		
専門応用科目群	生活工学デザインワークショップ（LIDEE）	1・2通	/		2			○		5	4	1	1			共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同
	Project Based Learning B	1・2通		2				○		5	4	1	1			
	生活工学創発演習（基礎）BI	1・2前		1				○		5	4	1	1			
	生活工学創発演習（基礎）BII	1・2後		1				○		5	4	1	1			
	生活工学創発演習（発展）BI	1・2前		1				○		5	4	1	1			
	生活工学創発演習（発展）BII	1・2後		1				○		5	4	1	1			
	生活工学モデリング演習	1・2後		1					○	1						
	生活工学インターンシップ	1・2通		2						5	4	1	1			
	住環境学インターンシップI	1・2通		2						1						
	住環境学インターンシップII	1・2通		2						1						
	生活工学特別研究（修士）	2通			10			○		5	4	1				
小計（11科目）	—	—	10	15	0	—	—	—	5	4	1	1	0	0		
合計（37科目）		—	—	12	61	0	—	—	—	5	4	1	1	0	1	
学位又は称号	修士（生活工学、工学、学術）			学位又は学科の分野			工学関係、家政関係									
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等							
当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。また、相手大学（奈良女子大学）の開講科目を専門科目群より4単位以上履修した上で、合計10単位以上履修すること。 ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。なお、この制度により学位申請する場合は、修士論文題目届提出の際に指導教員の推薦書を添付すること。また、修士論文提出の際に業績一覧を併せて提出すること。									1学年の学期区分		2学期		4学期			
									1学期の授業期間		15週		8週			
									1時限の授業の標準時間		90分		90分			

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおおうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校学科の学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等		
当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。また、相手大学（お茶の水女子大学）の開講科目を専門科目群より4単位以上履修した上で、合計10単位以上履修すること。 ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。なお、この制度により学位申請する場合は、修士論文題目届提出の際に指導教員の推薦書を添付すること。また、修士論文提出の際に業績一覧を併せて提出すること。	1 学年の学期区分	2 学期	4 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週	8 週
	1 時限の授業の標準時間	9 0 分	9 0 分

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行う場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の異なる標準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合は届出を行う場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行う場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大規模短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位をすること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程 共創工学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共創基礎科目群	共創工学概論		<p>共創工学の理念の概説、およびその社会的背景を知識として把握する。その上で多様な工学・共創工学分野の具体的な研究事例から、各専門分野における共創的アプローチ（発見力、発想力、デザイン力、対話力）による実践方法を理解し、学生が自身の研究プロセスに活かせる手法を身につけることを最終的な到達目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>第1～5回：文化情報にかかわる共創工学について、研究事例を紹介した上で対話的なディスカッションを複数教員と学生で実施する。 （7 岡岡展久、10 土山玄、12 藤山真美子、13 Le Hieu Hanh、14 土田修平／5回）（共同）</p> <p>第6～10回：人に関わる工学技術と共創について、研究事例を紹介した上で対話的なディスカッションを複数教員と学生で実施する。 （1 近藤恵、2 伊藤さとみ、3 太田裕治、8 秋元文、11 Triplette Julien、15 雨宮敏子、16 佐藤有理／5回）（共同）</p> <p>第11～15回：環境と共創工学について、研究事例を紹介した上で対話的なディスカッションを複数教員と学生で実施する。 （4 大瀧雅寛、5 長澤夏子、6 宮澤仁、9 河合英徳／5回）</p>	オムニバス方式・共同
共創基礎科目群	共創データサイエンス演習		<p>科学技術/機械学習技術の発展により、ビジネス現場において、データの利活用が重要となっている。こうした社会背景の中、データサイエンティスト人材の需要が高まり、現在ではデータサイエンティスト人材の不足が指摘されている。特に、機械学習を作成するだけではなく、その結果をビジネスに活用できる人材の不足が指摘されている。そこで本講義では、実際のソーシャルゲームの生ログをサンプリングしたデータを使って、基礎集計から機械学習の作成・評価までの一連のフローを通して、実際に手を動かしてもらい、その予測した結果を基に最終的には模擬報告会（プレゼンテーション）を実施する。実践的な授業を通し、ビジネスに必要なデータサイエンスの理解を深めていく。</p>	
共創基礎科目群	知的財産論特論		<p>イノベーション創出に欠かせない知的財産マネジメントの基本的な考え方を理解を深める。特に、共創工学分野の研究成果と知的財産権の関連について理解する。また、知財情報を自らの研究促進等に利用できるようになることを目指す。以下の項目について取り上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発明の作り方（発明の発想の切り口について） ・知財の役割分担（特許・意匠・商標・著作権の概説） ・特許制度について（特許をとるための制度を知る） ・特許検索の方法（特許文献による技術の速習法） ・請求項の書き方（特許の文章作成法） ・請求項の作成演習（日用品編） 	
共創基礎科目群	技術者倫理		<p>科学技術は人類の生活を豊かにしてきたが、反面社会に大きな影響を与えるようになってきた。科学技術に携わる者は、高度な専門的知識だけでなく、高い責任感と倫理観をもって仕事に取り組まなければならない。科学技術や産業に関係する法律を学び、環境問題、エネルギー問題、品質問題、安全問題などに対して科学技術がかかわる種々の課題を認識し、科学技術が社会と密接に関係していることを理解し、将来科学技術に携わる者として必要なしっかりした善悪の基準（倫理）を学ぶ。</p>	
専門科目群	工学系科目（文化情報） システムデザイン特論		<p>機械学習のアルゴリズムを理解するとともに、システムデザインにつながる基礎的な知識を身につける。</p> <p>データの中から法則性やパターンを見つけるアルゴリズムを構成することを目標に機械学習に関連する統計解析の基礎・応用について学習する。前半では、統計解析の基本概念やデータの要約指標を学び、後半では実用的な機械学習アルゴリズムを取り上げ、具体的な応用やプログラミングによる実装方法に触れていく。授業は理論と実践のバランスを重視し、アルゴリズムの動作やその応用事例についての理解を深めるため、演習を随時取り入れる。</p>	
専門科目群	工学系科目（文化情報） ヒューマンコンピュータインタラクション演習		<p>人間行動認識の基礎知識を学び、実際のデータやプログラムを活用して、実践的スキルを身につけることを目指す。人やモノに取り付けたセンサを活用し、行動認識技術の重要性を理解するとともに、データ処理や機械学習アルゴリズムの基礎を習得する。また、ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）分野における新たな技術や手法の発展可能性を探るため、講義で扱ったトピックに基づき、最新の論文を調査・サーベイし、発表を行う。</p>	

専門科目群	工学系科目 (文化情報)	建築意匠特論		共創工学の視点から傑作といわれる建築作品について、それらが創造された過程を、実践と思考の相互作用としてとらえ、設計理論や職能との関わりから、作品の分析、評価することを学ぶ。 建築の設計行為は、実践と思考の飽くなき繰り返しであり、傑作と呼ばれる作品は、両者の相互作用の類なる成果である。中世から現代にいたるまで、当時の設計理論や建築家職能との関連から、建築にあらわれた意匠の意義を検討する。その成果を通じて、建築物の設計論、創作論に発展させ、実践的な建築設計に生かすことを検討する。	
専門科目群	工学系科目 (文化情報)	空間デザイン演習		共創工学の視点から建築設計の基礎知識と技能を踏まえ、さらに高度な建築設計の方法を学ぶ。また、演習課題を通じて高度なプレゼンテーション能力を修得する。 住宅や公共施設など、中小規模の建造物(RC、Sを含む混構造)を対象とし、かたちの基本的要素とその構成という視点から設計過程を講義する。また具体的な建築設計の実習課題を通じて、素材や構造、設備や機能など、建築を取り巻く諸条件を把握し、建築の構想を具体化するプロセスを学ぶ。	
専門科目群	工学系科目 (文化情報)	都市デザイン特論		現代の都市に求められる機能や役割は、人口構造や産業構造の変化、地球規模での環境問題等から大きな影響を受けるとともに、技術発展や市民参加など都市生活の高次化に伴い多様化している。本講義では、近代以降の都市デザインの変遷を、同時代のトピックやキーワードを手掛かりに概観し、都市の成立背景および発展理論とその構造、機能、形態との関係等について議論する。現代の都市が抱える今日的課題を自ら発見し、議論する基礎的能力の習得を達成目標とする。	
専門科目群	工学系科目 (文化情報)	都市デザイン演習		都市は、歴史や自然もしくは人々の営みによって形成された場所性や記憶の集積として、都市文脈の更新と再定義を繰り返しながら後世へと継承される。本演習授業では、身近な都市空間のフィールドサーベイを通して、対象とする都市空間の環境ポテンシャルを顕在化するレジリエントな都市環境の再生手法を検証し、最適な都市デザインのあり方を考える。現代の都市が抱える今日的課題を自ら発見し、評価軸を探り、広域な都市デザインに適応可能な戦略を組み立てる基礎的な分析および創作能力の体得を達成目標とする。	
専門科目群	工学系科目 (文化情報)	共創データベース特論		現代社会においてデータベースシステムがほぼ全て情報システムに利用されているといっても過言ではない。本講義では、データベース工学に関する以下の主要なトピックを15回の授業で学ぶ。 ・データモデル(データの構造をどのように表現するか) ・問い合わせ言語(データベースに質問するための言語、例:SQL) ・データアクセス方法(データにどのようにアクセスするか) ・データ格納(データの保存方法) ・クエリ実行(データベースに対する処理の実行方法) ・同時実行制御(複数ユーザーが同時にデータを操作するための制御) ・ロギングと障害時回復(データ操作の履歴管理や障害発生時の復旧方法) ・分散データベースシステム(複数の場所に分散しているデータベースの管理) これらのトピックでは、基礎的な概念だけでなく最先端技術についても紹介する。	隔年
専門科目群	工学系科目 (文化情報)	共創データベース演習		「共創データベース特論」で学習したデータベースシステムにおけるデータモデル・問い合わせ言語(SQL)・データアクセス方法・データ格納・クエリ実行・同時実行制御・ロギングと障害時回復・分散データベースシステム等の概念の理解を深めるために、関連演習課題に取り組む。さらに、講義で扱ったトピックに基づき、最新の論文を調査し、発表を行うことでデータベース工学分野における新たな技術や手法等の発展可能性を探る。	隔年
専門科目群	工学系科目 (文化情報)	共創データ工学特論		データマイニングの理論と実践的な手法に関する次の主要トピックを学ぶ。 ・データクリーニングと統合 ・頻出パターン、時系列パターン、構造化パターンのマイニング ・クラスタリング、外れ値分析、不正検知 ・予測的マイニング ・テキスト、医療データのマイニング ・データマイニングにおけるセキュリティとプライバシー これらのトピックでは、応用例や最先端技術についても紹介する。	隔年
専門科目群	工学系科目 (文化情報)	共創データ工学演習		「共創データ工学特論」で学習したデータマイニングにおけるデータクリーニング統合・頻出パターン/時系列パターン/構造化パターンのマイニング・クラスタリング/外れ値分析/不正検知・予測的マイニング・テキスト/医療データのマイニング/データマイニングにおけるセキュリティとプライバシー等に関する演習課題に取り組む。更に、講義で扱ったトピックに基づき、最新の論文を調査し、発表を行うことで、データマイニング分野における新たな技術と手法の発展可能性を探る。	隔年

専門科目群	工学系科目 (文化情報)	画像・音声技術特論		<p>本科目では画像・音声に関する最新技術動向を議論する。まず画像・音声に共通する特徴量の概念を説明し、その具体的な用途を解説する。続いて、画像・音声に共通して用いられる近年の機械学習技術について説明する。これらの知識を前提として、画像・音声の各々の技術について、学部講義科目での履修内容よりも発展した最新技術の動向を解説する。特に画像についてはコンピュータビジョン技術を、音声については音楽情報処理技術を重点的に解説する。最後に、画像・音声の最新技術について履修者による論文紹介を実施する。</p>	隔年
専門科目群	工学系科目 (文化情報)	画像・音声技術演習		<p>本科目では画像・音声技術に関するプログラミング演習を課する。画像に関してはOpenCVというライブラリを用いたプログラミングを実施する。OpenCVは画像処理・コンピュータビジョンの各技術を網羅的にサポートしたライブラリである。音声に関してはlibrosaというライブラリを用いたプログラミングを実施する。librosaは音声・音楽の情報処理に関する各技術をサポートしたライブラリである。本科目ではこのいずれかについて、プログラムの処理手順、実行結果、議論や考察をまとめたレポートを提出することを課題とする。</p>	隔年
専門科目群	工学系科目 (文化情報)	可視化技術特論		<p>本科目では計算機による可視化技術に関する最新技術動向を議論する。まず可視化の定義・歴史・用途について概説し、可視化の中でも「情報可視化」と呼ばれる技術の定義を示す。続いて、データ構造と情報可視化の関係、情報可視化の適用事例、情報可視化の操作と評価について解説する。さらに、情報可視化の新しい技術であるVisual AnalyticsとImmersive Analysisについて、さらにはデータサイエンスや機械学習と情報可視化の関係について論じる。最後に、情報可視化の最新技術について履修者による論文紹介を実施する。</p>	隔年
専門科目群	工学系科目 (文化情報)	可視化技術演習		<p>本科目では「可視化技術特論」で解説する情報可視化技術の中でも、階層型データを題材としたデータ分析を課する。本科目では階層型データ可視化のために講師自身が開発した「平安京ビュー」というソフトウェアを用いる。まず平安京ビューの起動方法とデータ書式について解説し、サンプルデータによる実行を試みる。続いて各履修者が関心をもつデータを探して、これを所定のデータ書式にもとづいて階層型データに変換し、可視化を試みる。本科目では、データの生成手順、実行結果、議論や考察をまとめたレポートを提出することを課題とする。</p>	隔年
専門科目群	工学と共創する 学術系科目 (文化情報)	テキストアナリティクス特論		<p>テキストアナリティクス特論では文学作品を計量的な観点から分析することを通じて、作品の理解を深めることを目的とする。具体的には作品の使用語彙や表現および文体の特徴などを統計的に解明する方法を解説し、併せてテキストデータの作成方法、その加工方法、およびテキストデータを対象としたデータサイエンスの手法について概説する。到達目標は、修士論文などで自身の研究を行う上で前提となるデータサイエンスの基礎を身につけることである。</p>	

専門科目群	工学と共創する学術系科目（文化情報）	テキストアナリティクス演習		テキストアナリティクス演習では、文学作品のテキストデータの計量的な研究について、実践を通して理解を深めることを目的とする。扱うテーマは、分析課題の設定、テキストデータの収集、正規表現を用いたテキストデータのクリーニング、形態素解析、分析、分析結果の解釈、そして発表・報告である。これら一連の作業をディスカッションなどを通じて実践的に学修し、テキストデータを分析する力を身につけることが到達目標となる。なお、テキストアナリティクス特論を事前に受講していることが望ましい。また、この授業では演習としてプログラミングを行うため、自身のコンピュータを持参する必要がある。	
専門科目群	工学と共創する学術系科目（文化情報）	文化情報学特論		歌舞伎などの日本演劇を中心に、演劇に関する研究手法を身につけることを目指す。実際にいくつかの演劇作品を取り上げて台本講読をおこなうとともに、台本や劇評などの演劇研究における文字資料の特性を理解する。併せて、台本を分析するにあたって情報学の手法の有効性や問題点を検討する。	
専門科目群	工学と共創する学術系科目（文化情報）	文化情報学研究演習		「文化情報学特論」に引き続き、歌舞伎などの日本演劇を中心に演劇に関する研究手法を身につけることを目指す。演劇は「いま、ここ」を表現の特性とする芸術である。形に残らない演技演出を分析する手法を、絵画や写真などの視覚資料の特性を理解したうえで検討する。併せてモーションキャプチャーなどによる情報学の手法の有効性や問題点を検討する。	
専門科目群	工学と共創する学術系科目（文化情報）	歴史情報学特論		歴史情報学や日本古代史料に関する専門講義を行ったうえで、それらに関する史料や論文を講読し、歴史学やそこで取り扱う歴史資料の特性を理解する。これによって、歴史資料のデジタル化の方法や、それを利用した情報学的な分析手法の有効性・問題点について検討する基礎を身につける。	
専門科目群	工科学目と共創する学術系科目（文化情報）	歴史情報学研究演習		「歴史情報学特論」で学んだ歴史資料の特性を踏まえたうえで、引き続き関連する史料や論文の講読を行う。さらに、受講者それぞれの問題関心に応じた研究発表を行い、受講者同士で議論を交わすことで、新たな学問領域である歴史情報学が既存の歴史学研究へ及ぼす影響や、社会との関わりなどについて理解を深めていく。	
専門科目群	工学系科目（環境）	水環境工学特論		水処理技術、水環境保全技術に関して基礎知識から最新情報までを理解し、共創工学の観点から説明できる能力を身につける。水処理技術、水環境保全技術に関して最新情報を含めて講義する。それぞれの技術については、わが国で実施されている事例について理解し、その特徴および問題点などを比較する。また海外事例なども把握し、日本の事例と比較しながら処理技術の適用性などについても深く学ぶ。我が国の水資源の状況、我が国の大気汚染の歴史、浄水処理の歴史、高度浄水処理技術などを含む。	
専門科目群	工学系科目（環境）	水環境工学演習		環境測定、処理技術に関する実験を計画し、遂行する能力を習得する。水処理技術、水環境保全技術に関する実験を独自に立案し、その計画を立てる。その立案過程を通じ、環境工学に関する基礎的知識を共創工学的また実用的なものとして身につける。具体的には河川調査や大気測定調査などについて。限られた時間内で行える実験計画を立てることが重要となる。ガイダンスののち、環境測定項目を挙げ関連実験を提案、実験に関するディスカッション、必要な器具や試薬などを検討し予算検討を行うなど、実践的な演習とする。	
専門科目群	工学系科目（環境）	建築環境工学特論		建築空間における環境要素の把握方法および建築設備との関連等を習得する。共創工学の観点から温熱環境、音、光について、人間の知覚や認知、行動を中心に実験や調査を行う方法、また、それらを建築環境工学の実践につながるための手法を学ぶ。環境シミュレーションの手法や実践例など、建築環境工学の技術的側面に関する最先端の論文を読み、その内容をプレゼンテーションしディスカッションを行う。	

専門科目群	工学系科目（環境）	建築環境工学演習		共創工学の視点から快適性の実現とともに環境共生や多様性という観点から、建築環境に求められる条件は複雑になってきている。本演習では、生活環境における熱・光・音などの物理量や人間の知覚、認知にもとづき、環境設計の基礎となる考え方、環境の評価の仕方について習得する。室内環境や都市環境の何に注目し、いかにデータを収集し、それをどのように分析評価するかについて、課題を通じて学ぶ。環境の評価方法及び分析手法に対する理解を深める。	
専門科目群	工学系科目（環境）	建築人間工学特論		共創工学的な側面から様々な機能に応じた建築環境の計画手法について、特に現代の主要な課題について、様々なスケールや用途、ユーザーやライフスタイルの変化を中心に議論する。人が生活する上で必要な様々な機能に応じた建築環境が要求されるが、社会の変化のなかでその条件は変化している。そこで現代的な課題を取り上げ、人の行動や心理的側面、課題に対応する建築計画手法について学び、様々なスケールや用途、ユーザーやライフスタイルの変化に対応した新しい設計方法論について議論する。	
専門科目群	工学系科目（環境）	施設デザイン演習		共創工学的な視点での建築設計の基礎知識と技能を踏まえ、さらに高度な建築設計の方法を学ぶ。公共施設、高齢者・子供のための都市デザインなどの計画分析と実地調査を通じて、設計案の評価、提案などの実務的能力、技術を演習形式で身につける。建築計画や計画に関する学術論文の調査を行い、発表する。グループで設計課題に取り組む。その設計課題に即した知識教授型の講義と、設計案の提出とエスキス、発表などを通じて、設計方法論の習得とプレゼンテーションなどのスキルを習得する。とくに3Dを用いたエスキスに取り組み、先端のプレゼンテーションツールを用いて、利用者の立場に立った空間把握と設計へのフィードバックについて検討を行う。	
専門科目群	工学系科目（環境）	共創コンピュータネットワーク特論		インターネット等の普及に伴い、コンピュータネットワークに関する知識は社会生活の上で必要不可欠なものとなってきた。情報科学の分野においても、ネットワークを抜きにしてコンピュータを議論することはもはや不可能である。本講義では、学部においてコンピュータネットワークに関する基礎知識を習得した学生を対象に、各プロトコル階層の動作メカニズムや実装例、コンピュータネットワークの応用などを詳細に議論する。輪講形式で進める。	隔年
専門科目群	工学系科目（環境）	共創コンピュータネットワーク演習		本演習では、コンピュータネットワークについて、実際に動作しているシステムの概要を学ぶことにより、その概念の理解を深める。インターネットを始め、世の中のコンピュータネットワークがどのような構成を持っており、どのような仕組みで動いているか、受講生自ら学習して発表してもらい、そのテーマを元に議論を行う。コンピュータネットワークの大学院生向け講義の教科書を用い、興味深いトピックの章を選び、輪講形式で読み進める。取り上げるトピックの例：ネットワーク層、トランスポート層、ネットワーク・セキュリティ	隔年
専門科目群	工学系科目（環境）	共創分散処理特論		ネットワーク技術の進歩により、コンピュータを単に接続し通信を行うだけでなく、この上で分散処理を行うことが可能となった。本講義では分散システムがどのような構成を持つべきであるか解説し、分散処理を行う際に考慮しなければならない同期、一貫性、セキュリティなどの主要課題を議論する。またこれらの技術の分散オブジェクト指向システム、分散ファイルシステム、分散ウェブベースシステムなどへの応用について学ぶ。以下の項目を取り上げる。分散システムの定義と目標、クロック同期、論理クロック、分散システムにおける相互排除、専任アルゴリズム、セキュアチャネル、アクセス制御、分散システムのセキュリティ管理、分散オブジェクト指向システム、分散ファイルシステムのアーキテクチャ、分散ファイルシステムにおける通信、分散ファイルシステムの一貫性と複製、分散ウェブベースシステムほか	隔年
専門科目群	工学系科目（環境）	共創分散処理演習		本演習では、分散処理について、実際に動作しているシステムの概要を学ぶことにより、その概念の理解を深める。世の中のネットワークコンピューティングがどのような仕組みで動いているか、受講生自ら学習して発表してもらい、そのテーマを元に演習を行う。以下の項目を取り上げる。分散システムの定義と目標、クロック同期、論理クロック、分散システムにおける相互排除、専任アルゴリズム、セキュアチャネル、アクセス制御、分散システムのセキュリティ管理、分散オブジェクト指向システム、分散ファイルシステムのアーキテクチャ、分散ファイルシステムにおける通信、分散ファイルシステムの一貫性と複製、分散ウェブベースシステムほか	隔年
専門科目群	工学と共創する学術系科目（環境）	自然地理学論		自然地理学、特に古気候学を学ぶ。具体的には国内外で発表された、時間分解能の異なる様々なプロキシ（年輪、堆積物、文書記録など）を用いた復元についての論文を講読して、そこから得られる情報がどのような特徴を持ち、それぞれのプロキシデータが時間・空間的にどのようなことがわかるのかを理解する。その理解から、まだわかっていないこと、解決すべき課題がどのようなものであるのか、そのためには何を調べれば良いのかについても考察する。	隔年

専門科目群	工学と共創する 学術系科目 (環境)	地理情報科学		地理情報科学に関する専門的講義を行うとともに、関連分野の教科書または国内外で発表された代表的な論文を講読し、その内容について議論することで、ビジネスから地域計画・社会基盤整備、環境保全活動まで、さまざまな分野で地理情報が活用されていることを学ぶ。また、地理情報システム (Geographic Information Systems: GIS) の支援を受けての地域調査・地域分析の方法、さらにジオデザインへの応用までを実例に基づいて学ぶことを目標とする。	
専門科目群	工学と共創する 学術系科目 (環境)	地理情報科学演習		「地理情報科学」で学んだ地理情報科学、地理情報システム (Geographic Information Systems: GIS) の知識をもとに、地域調査・地域分析に用いることができる地理情報解析手法について GIS の演習を通じて学び、地域計画等のジオデザイン分野における実際問題への応用力を身に付けることを目標とする。演習内容は、既存の地理的ビッグデータの利用からオリジナルデータの作成といったデータ取得について学んだ上で、そのデータを用いて空間的分布のパターン分析やネットワーク分析など、地理情報解析のさまざまな手法について学ぶ。	
専門科目群	工学と共創する 学術系科目 (環境)	都市環境学		国内外の大都市を事例に、都市地理学的視点から現代の都市空間に対する理解を深めることを目標とする。20世紀前半から近年に至るまでの都市を題材とした先行研究を取り上げ、グローバル化に伴って都市のあり方がどのように変わってきたのかについて議論する。とくに、各時代における都市内部の社会的マイノリティの存在に注目し、かつての都市がかれらに対してどのような視線を向けてきたのかを理解することで、今後の多文化共生に向けた望ましい都市環境の構築に必要な視点を学んでいく。	
専門科目群	工学と共創する 学術系科目 (環境)	フェミニスト空間論		社会地理学やフェミニスト地理学の知見に基づき、ジェンダーをはじめとしたさまざまな差異と空間や場所の構築・再構築の関係について学ぶ。講義の前半では第二波フェミニズム以降の著名なフェミニズム理論について概観した後で、フェミニズム理論の進展が空間や場所の議論に与えた影響について先行研究を中心に学んでいく。講義の後半では、国家、都市、地方、ホーム、身体といった具体的な空間スケールについて、フェミニズムの視点から検討することで、多様性と空間・場所のかかわりについて考えていく。	隔年
専門科目群	工学と共創する 学術系科目 (環境)	フェミニスト空間論演習		社会地理学とフェミニスト地理学の知見に基づき、ジェンダーをはじめとしたさまざまな差異と空間や場所の構築・再構築の関係について、先行研究の検討を通して学ぶ。演習では、履修者の関心に基づき、社会地理学あるいはフェミニスト地理学の著名な英語圏の学術誌を取り上げ、そこで掲載されている研究論文の文献購読を行う。履修者はまず文献調査を行い、1つないし2つの論文を選ぶ。そして、選んだ論文に関して、研究目的、研究対象、研究方法、考察のあり方といった点から批判的に検討し、口頭発表を行う。このような検討作業を通して、フェミニズムの視点から空間や場所について研究する方法を具体的に考えていく。	隔年

専門科目群	工学系科目(人間)	身体行動計測特論		<p>The class content gives an overview of the contemporary methods used to evaluate physical behaviors. A particular attention will be given to calorimetry laboratory techniques and accelerometer-based methods. Lectures usually consist in a brief introduction of concepts and technology used to measured human physical behaviors. Recent studies that used physical activity monitoring technology to evaluate physical populations in populations will be presented and discussed (Journal Club format). We will also discuss the room of opportunity offered by the new wearable technology devices for the promotion of physical activity.</p> <p>身体行動の評価に用いられる現代的な方法を概観する。特に、熱量測定実験技術と加速度計を用いた方法に注目する。講義は通常、人間の身体行動を測定するために使用される概念と技術の簡単な紹介で構成される。集団における身体的集団を評価するために身体活動モニタリング技術を使用した最近の研究を紹介し、議論する(ジャーナルクラブ形式)。また、身体活動促進のための新しいウェアラブル技術機器が提供する機会の余地についても議論する。</p>	
専門科目群	工学系科目(人間)	身体行動計測演習		<p>The class includes practical exercises related to 身体行動計測特論 and research activities of the Ohta-Tripette laboratory. Practical exercises include the evaluation of physical activity using questionnaire, calorimetry and accelerometry methods.</p> <p>身体行動計測特論や太田・トリベッテ研究室の研究活動に関連した実習を行う。実習では、質問紙法、熱量測定法、加速度測定法などを用いて身体活動の評価を行う。</p>	
専門科目群	工学系科目(人間)	バイオマテリアル特論		<p>本講義では、医療技術の歴史を概説するとともに、その中で生体材料(バイオマテリアル)が果たす役割について説明する。生体材料の機能発現原理を理解するとともに、生体材料を用いたドラッグデリバリーシステム(DDS)・人工臓器・再生医療などの先端医療応用についての概念を理解することを目的とする。医療の歴史、薬物治療・ドラッグデリバリーシステム・ワクチン、人工臓器・臓器移植、抗血栓性材料、再生医療、未来の先端医療などを取り上げる。</p>	
専門科目群	工学系科目(人間)	バイオマテリアル演習		<p>生体材料(バイオマテリアル)に関する高分子材料の基礎知識をつけるとともに最新の研究動向を知ることが目標とする。英文の原著論文を適切に読み、発表・議論する力を付ける。高分子表面の基礎に関する講義(高分子表面とは何かーバイオテクノロジー・先端医療への応用まで)、ハイドロゲルの基礎に関する講義(構造と物性、研究動向、バイオテクノロジーへの応用、生体組織との類似性)、英文の原著論文を用いた文献調査・発表、高分子材料に関する教科書の輪読などを行い実践的に進める。</p>	
専門科目群	工学系科目(人間)	衣環境機能材料特論		<p>衣環境に関連する内容に関し、基礎的な事項を習得する。共創工学の観点から衣服の着心地に大きく影響する衣環境に関して論じる。衣服内の温湿度と快適感、衣服材料の吸湿性、保温性、通気性などの性質と衣環境との関連、人間の発汗や体温維持などの温熱生理学、快適性評価などについて理解する。温熱環境と人間、衣服と体温調節、衣服内気候、快適性の評価、衣服材料の熱水分移動特性、人体の動作と衣服の快適性などを取り上げる。</p>	
専門科目群	工学系科目(人間)	衣環境機能材料演習		<p>共創工学における衣環境設計の視点から被服材料の特性を検討する。演習形式とし、受講者が毎回のテーマに沿って予め調べ、プレゼンテーションを行う。</p> <p>衣服を構成する材料である、繊維、糸、布の備えるべき性質について概説するとともに、最新のトピックに触れる。主に、衣服材料の構造と、力学的性質および熱・水分の移動特性などとの関係について考察する。とくに、繊維の化学構造と吸湿性、繊維の形態と吸水性、繊維の曲げやすさ、糸の構造と保温性、布の力学的特性(引張り・曲げ・曲面形成)などの物性の基礎から、衣服の着衣状態や適合性などについても取り上げる。</p>	
専門科目群	工学系科目(人間)	共創数理情報学特論		<p>本講義では、数理科学と情報学の融合領域を対象とし、特に確率分布を視覚的かつ体系的に表現する手法である確率的グラフィカルモデルの理論と応用を学ぶ。ベイジアンネットワークやマルコフ連鎖モンテカルロ法を中心に、複雑な確率分布を効率的にモデル化するための基礎理論を理解する。また、条件付き独立性や確率変数間の依存構造を捉えるための数理的枠組みを習得する。さらに、推論アルゴリズムや学習アルゴリズムといった実践的な手法を、具体例を通じて探求する。本講義を通じて、データに潜む構造を把握して不確実性のある現象のモデル化や解析を可能にするスキルを培い、データ科学や人工知能の分野で活用可能な基礎を確立する。</p>	隔年

専門科目群	工学系科目(人間)	共創数理情報学演習	本演習では、「共創数理情報学特論」で学んだ確率的グラフィカルモデルの理論を、実践的な視点から理解することを目指す。具体的には、確率的グラフィカルモデルの構築方法を学び、それを活用した推論アルゴリズムの実装や、実データを用いたモデル学習プロセスに取り組む。各演習課題を通じて、理論を基盤としながら、データ解析の実務的スキルを習得する。また、PythonやRなどのプログラミングツールを活用し、実際のデータセットを分析することで、理論と応用の橋渡しを行う。これにより、複雑な確率分布の構造を明らかにしたり、不確実性を含む実問題をモデル化したりするための知識と実践力を身につける。	隔年
専門科目群	工学系科目(人間)	共創非線形数理特論	本講義では、非線形科学および数理科学の理論と応用について幅広く学び、現代科学・工学における非線形現象の本質を理解することを目指す。非線形システムの基本概念の導入から始め、カオス、分岐現象、ソリトン、反応拡散系といった多様なテーマを体系的に取り上げる。さらに、これらの理論を数値解析やシミュレーションを通じて実践的に学ぶ。実世界の応用例として、生物学、化学、物理学、工学における非線形現象を具体的に検討し、モデル化や解析の手法を掘り下げる。これにより、非線形数理の理論的知識をもとに、科学や工学における複雑な問題を数理的に捉えるための視点とスキルを身につける。本講義は、非線形科学の応用可能性を広げ、多様な分野で活躍できる基礎力を養うことを目標とする。	隔年
専門科目群	工学系科目(人間)	共創非線形数理演習	本演習では、「共創非線形数理特論」で学んだ理論を基に、非線形システムの解析を実践的に深めることを目指す。数値解析やシミュレーションを通じて、非線形システムの振る舞いを実際に観察し、モデル化や解析の技術を体得する。具体的には、カオス現象、分岐現象、反応拡散系、非線形振動など、多様な非線形現象を題材とし、これらを表現する数理モデルの構築やシミュレーションの実装を行う。さらに、得られたシミュレーション結果の解釈を通じて、理論と応用を結びつけるスキルを磨く。本演習を通じて、非線形現象を数理的に探究するための実践力を高め、複雑な現象を科学的に理解する基盤を築くことを目指す。	隔年
専門科目群	工学と共創する学術系科目(人間)	第四紀学特論	はじめに第四紀とはなにか(地質年代区分について)について概説する。その上で地球史の現代といえる時代(約260万年前から現在にいたる第四紀)の自然、環境、人類の研究を通して、現在と近未来の環境を理解するべく、それに関わるさまざまな分野(地質、地理、古生物、動物、植物、土壌、人類、考古、地球物理、地球化学、工学)からテーマを決めて詳説する。教員と受講者が相談して各自テーマを決め、情報収集して理解を深め、それについて教員に発表およびまとめを行う。	
専門科目群	工学と共創する学術系科目(人間)	人体計測学演習	人体計測によって得られたデータが、生活の中で利用する工業製品にどのように活かされているかを知ることにより、さらなる応用発展のヒントを得ることを目指す。また、生体の計測情報にとどまらず、人体に潜む様々な情報について広く知ることにより、情報分析機器の開発につながる知識を得ることや、その他、未知の応用分野を開拓することも目指す。人体から引き出し得る情報には、どのようなものがあり、また、どのようにして調べるかについて、多様な研究例を採り上げ、方法論および結論の解釈のしかたについて学ぶ。具体的には、生体の寸法計測・3D形状計測・可動域計測などにより、人間工学に利用される基本データの取得法やデータ処理法を学ぶ。さらに応用研究例を数多く採り上げ、生活の中で利用する工業製品にどのように活かされているかを知る。	
専門科目群	工学と共創する学術系科目(人間)	共創生命情報学特論	多くの生物のゲノム塩基配列がわかり、トランスクリプトームなどを筆頭とするオミックス解析が容易にできる時代になった。技術革新は、一個体のオミックスデータをも産出できる状況を生み出してきた。さまざまなオミックスデータを組み合わせることで、生物学の新しい知見がわかろうとしている。そこで本講義では、最新の解析技術に関する書物を輪読し、マルチオミックス研究を受講者全員で考察する。第1回の講義で全受講者に担当章を割り当て、担当日に受講者が口頭発表する。講義の最中にテキストの翻訳をすることがないように、事前にレジュメをつくり講義に臨むことを期待する。なお、講義の進行予定は、輪読の進行状況に応じて変更する。	
専門科目群	工学と共創する学術系科目(人間)	共創生命情報学演習	機械学習技術は、これからのライフサイエンスには必須である。生命現象を数理的に取り扱う能力を高めるための演習を行う。統計およびプログラミングの技術をもっていることは、様々な局面で有利にはたらくため、共創工学のなかで、ぜひ身につけるべき技術である。論理的な思考力と問題を分解して考える能力は、数理生命科学に限らずありとあらゆる場面で必要である。各自のノートPC(持ち込み)を利用して、機械学習の基礎的技術を学習/演習する。演習の最後には各自のデータを用いた解析を実施する。	

専門科目群	工学と共創する学術系科目 (人間)	言語科学特論	言語学についての専門的講義を行い、さらに、それらを検証する方法について学ぶ。伝統的な言語分析では、例文に対する母国語話者1~2名の容認度判断や音声データに基づき、言語理論を構築することを目標としていたが、コーパスの充実、webによる容認度調査法の確立、統計学ソフトや音声解析ソフトが使いやすくなるにつれ、こういったデータサイエンスの手法を取り入れて、言語理論の検証を行う研究も増えている。この両方にまたがる専門的論文を購読し、議論することで、言語学の成果と検証方法の両方を学ぶことを目標とする。	
専門科目群	工学と共創する学術系科目 (人間)	言語科学演習	これまでに言語学者の思索と内省を通して構築してきた言語理論について理解を深めると同時に、その理論の検証を行う研究論文を参考に検証を実践する。特定の言語現象を選び、その構造・意味・音韻的特性から仮説を立てた上で、言語科学特論で学んだ検証方法を用い、その仮説の検証を行う。実践を通して、専門的知識を深め、言語の分析及び様々な言語仮説の検証方法を習得することを目標とする。	
専門科目群	工学と共創する学術系科目 (人間)	認知科学	広い意味での認知科学(科学哲学、言語哲学、人工知能、神経科学なども含む)における英語文献の原典購読を行う。哲学とAIが車の両輪のように相互的に研究が進められている領域、とくにオントロジー(カテゴリ)、自然言語・非言語表現の意味論などに焦点を当てる。基本文献にあたる書籍やサーベイ論文を読み、議論を行う。必要に応じてEncyclopediaやHandbook内の記事などにもあたりながら、理解を深めていく。当該分野・領域の基礎的知識を養うことを目的とする。	
専門科目群	工学と共創する学術系科目 (人間)	認知科学演習	広い意味での認知科学(科学哲学、言語哲学、人工知能、神経科学なども含む)における英語文献の原典購読を行う。哲学とAIが車の両輪のように相互的に研究が進められている領域、とくにオントロジー、自然言語・非言語表現の意味論などに焦点を当てる。国際誌Cognitive Science, Minds and Machines, 国際会議Annual Conference of the Cognitive Science Society (CogSci), International Conference on Formal Ontology in Information Systems (FOIS)などに掲載された論文から履修者の関心のあるものを選び、内容を報告し、議論を行う。本分野の研究が具体的にどのような形で展開されているのかを知り、履修者自身の修士論文研究のモデルにしてみよう。	
専門実践科目群		共創インターン I	共創工学にかかわる関連企業・研究機関・官公庁等でインターンシップを行う事により、共創工学の研究成果の社会貢献や社会・生活への展開について現場実践的に学ぶ。 生活関連企業・研究機関・官公庁にてインターンシップを行い、報告会にて研修内容を発表する。現場にて工学に関わる業務に関わり、その様子を体験することにより、実業としての工学技術の現況を理解する。工学的知識や安全管理等について学ぶとともに、グループ内におけるコミュニケーション能力を高める事も目標とする。研修終了後はレポートを提出するとともに、報告会にて研修内容を発表する。 (5 長澤夏子、14 土田修平/15回) (共同)	共同
専門実践科目群		共創建築インターン I	一級建築士受験資格の「実務要件」にかかわる科目として、建築に関わる職種でのインターンシップを行う。これにより、共創工学の研究成果の社会貢献や社会・生活への展開について現場実践的に学ぶ。 所定の時間(80時間以上)インターンシップを行い、報告会にて研修内容を発表する。現場にて設計や監理に関わる業務に関わり、その様子を体験することにより、実業としての現況を理解する。業務や実践的知識・技能を学ぶとともに、グループ内におけるコミュニケーション能力を高める事も目標とする。研修終了後はレポートを提出するとともに、報告会にて研修内容を発表する。	
専門実践科目群		共創建築インターン II	建築に関わる職種でのインターンシップを行う。これにより、共創工学の研究成果の社会貢献や社会・生活への展開について現場実践的に学ぶ。 所定の時間(80時間以上)インターンシップを行い、報告会にて研修内容を発表する。現場にて設計や監理に関わる業務に関わり、その様子を体験することにより、実業としての現況を理解する。建築士の指導を受けるなど業務や実践的知識・技能を学ぶとともに、グループ内におけるコミュニケーション能力を高める事も目標とする。研修終了後はレポートを提出するとともに、報告会にて研修内容を発表する。 一級建築士受験資格の「実務要件」にかかわる科目として、本科目を受講する場合には、「共創建築インターンI」及び「共創建築インターンII」を、連続して受講することを原則とする。	

専門実践科目群	共創工学ワークショップ・ファシリテーション (LIDEE)		<p>演習課題に取り組みながら、科学技術に関する知識を活用し、人間の行動や生活を中心としたライフ・イノベーションの創造プロセスを学ぶワークショップのファシリテーションを行う。現在「デザイン」は物理的な造形行為を超え、技術や社会、生活を含めたイノベーションの核として位置づけられている。文理融合・問題解決型のワークショップのファシリテーションをサポートしながら、企画運営を行いながら、社会の様々な問題をテーマとしたWorkshopの実践方法を学ぶ。</p> <p>(1 近藤恵、2 伊藤さとみ、3 太田裕治、4 大瀧雅寛、5 長澤夏子、6 宮澤仁、7 元岡展久、8 秋元文、9 河合英徳、10 土山玄、11 Tripette Julien、12 藤山真美子、13 Le Hieu Hanh、14 土田修平、15 雨宮敏子、16 佐藤有理/7回) (共同)</p>	共同
専門実践科目群	共創工学演習Ⅰ		<p>共創工学演習Ⅰ(発見)では、共創工学分野の内容と各分野における研究課題を理解する。</p> <p>学生による研究成果の発表と、その意義や課題について教員と学生による議論を聞く。研究内容の理解を深めながら、自身の課題発見を行い、新しい研究コラボレーションについての検討を行う。学生自身の研究計画の作成を行い、テーマを共創的な視点で展開させる可能性について検討を行う。発想力、対話力を養わないコラボレーションの技術も習得する。</p> <p>(1 近藤恵、2 伊藤さとみ、3 太田裕治、4 大瀧雅寛、5 長澤夏子、6 宮澤仁、7 元岡展久、8 秋元文、9 河合英徳、10 土山玄、11 Tripette Julien、12 藤山真美子、13 Le Hieu Hanh、14 土田修平、15 雨宮敏子、16 佐藤有理/7回) (共同)</p>	共同
専門実践科目群	共創工学演習Ⅱ		<p>共創工学演習Ⅱ(対話)では、共創工学分野の内容と各分野における研究課題を理解する。</p> <p>学生が輪番で自身の研究計画を発表し、その意義や課題について学生同士による議論・対話を行い、研究内容の理解を深め、研究コラボレーションの発展へ繋げる。</p> <p>異分野コラボレーションによる共創工学研究を実施するためには、自身の研究だけでなく、専攻内の他研究室の研究内容に対する理解が求められる。研究内容の発表を通じてプレゼンテーション・批判的思考・コミュニケーションの技術も習得する。</p> <p>(1 近藤恵、2 伊藤さとみ、3 太田裕治、4 大瀧雅寛、5 長澤夏子、6 宮澤仁、7 元岡展久、8 秋元文、9 河合英徳、10 土山玄、11 Tripette Julien、12 藤山真美子、13 Le Hieu Hanh、14 土田修平、15 雨宮敏子、16 佐藤有理/7回) (共同)</p>	共同
専門実践科目群	共創工学演習Ⅲ		<p>共創工学演習Ⅲ(発想)では、共創工学分野の内容と各分野における研究課題を理解する。</p> <p>学生が輪番で自身の研究成果を発表し、その意義や課題について教員と学生による議論から、研究内容の理解を深めつつあらたな発想に繋げる。</p> <p>異分野コラボレーションによる共創工学研究を実施するためには、自身の研究だけでなく、専攻内の他研究室の研究内容に対する理解が求められる。研究内容の発表を通じてプレゼンテーション・コラボレーションの技術も習得する。</p> <p>(1 近藤恵、2 伊藤さとみ、3 太田裕治、4 大瀧雅寛、5 長澤夏子、6 宮澤仁、7 元岡展久、8 秋元文、9 河合英徳、10 土山玄、11 Tripette Julien、12 藤山真美子、13 Le Hieu Hanh、14 土田修平、15 雨宮敏子、16 佐藤有理/7回) (共同)</p>	共同
専門実践科目群	共創工学演習Ⅳ		<p>共創工学演習Ⅳ(デザイン)では、共創工学分野の内容と各分野における研究課題を理解する。</p> <p>学生による研究計画を発表を聞き、その意義や課題について学生同士によるディスカッションを行う。</p> <p>異分野コラボレーションによる共創工学研究を実施するためには、自身の研究だけでなく、専攻内の他研究室の研究内容に対する理解が求められる。研究内容の発表のファシリテーションを通じてリーダーシップの醸成をはかりコミュニケーションの技術を習得するとともに、共創工学を展開するためのデザイン能力を養う。</p> <p>(1 近藤恵、2 伊藤さとみ、3 太田裕治、4 大瀧雅寛、5 長澤夏子、6 宮澤仁、7 元岡展久、8 秋元文、9 河合英徳、10 土山玄、11 Tripette Julien、12 藤山真美子、13 Le Hieu Hanh、14 土田修平、15 雨宮敏子、16 佐藤有理/7回) (共同)</p>	共同

<p>専門実践科目群</p>	<p>共創工学特別研究（修士）</p>	<p>共創工学における修士研究を行い、輪番で自身の研究進捗や関連研究を発表し、内容に関して学生・教員間で討論する。共創工学特別研究（修士論文など）の完成に向け、各自の研究分野において課題解決のための具体的な思考方法と研究手法を学ぶ。</p> <p>(1 伊藤さとみ) 言語の意味と音声の関係を研究する。Praatなどのソフトウェアを使って音声を可視化し、その特徴を抽出してデータサイエンスの手法で分析することにより、イントネーションが言葉の意味をどのように変えてしまうのかを研究する。</p> <p>(2 太田裕治) 少子高齢社会において、誰にでも使いやすい生活支援技術が求められる。先端科学技術の福祉や医療・健康分野への応用に関する研究を行なう。</p> <p>(3 大瀧雅寛) 水環境学や環境衛生学を中心に、途上国におけるウェルビーイングの高い水供給技術や排水処理技術の開発を行い、かつその技術をいかにその社会に適用させることができるのかについて研究する。</p> <p>(4 近藤恵) 私たちヒトの身体的特徴を進化的に捉え、ヒトという生物がどのような生き物であるかをより深く理解するための研究を行う。長い生物の歴史の中で、ヒトが地球上においてどのような存在であるか正しく理解し、技術を考える知力を養う教育研究を行う。</p> <p>(5 長澤夏子) 建築を使う「人」を中心に評価する研究を行なう。一つは行動や社会的側面をあつかう建築計画学で、都市や建築での行動・使われ方の調査を行う。もう一つは人間工学的、環境心理学的アプローチで実験調査を行い、UDなど多様な人にとっての空間のあり方について研究する。</p> <p>(6 宮澤仁) 人文学・社会科学分野の地理情報の可視化や空間分析から地域の文化的・社会的課題を明らかにするとともに、共創工学の趣旨から持続可能な地域、豊かな文化に囲まれた地域をデザインするためのプラットフォームとしてGISを応用した研究を行う。</p> <p>(7 元岡展久) 社会や文化的側面を含む私たちの生活環境と建築意匠との関連を分析し、デザインの意味や可能性を探る。また過去から現代に至る建築作品を対象に、時代や地域による建築の特徴を探る建築史研究もテーマにする。さらに研究や調査の成果を建築設計に応用し、具体的なデザインの実践を目指す。</p> <p>(8 秋元文) バイオテクノロジー・エネルギー関連分野で真に活用できる、ハイドロゲルなどのユニークな機能性ソフトマテリアルを開発する。このような材料を開発するためには、化学・生物学・医学・工学・物理学・数理論理学をシームレスに行き来しながら、「基礎研究」と「異分野融合」を重視し指導を行う。</p> <p>(9 河合英徳) 市街地での猛暑や台風での強風被害等、都市・建築の周りの気象現象は地域特有の立地特性やそこに暮らす人々の生活と密接にかかわっている。共創工学のデータサイエンス手法も活用しながら熱・気流の観測やシミュレーションに基づく実態把握、熱環境設計のためのシミュレーション手法の開発、居住者の行動を促すインテリアの開発等を行い、地域の気象条件に適応した都市や建築の設計に生かしていくことを目指す。</p> <p>(11 Triplette Julien) 多くの学問分野が交差するスポーツ科学をテーマとする。とくに人間工学とデータサイエンスの手法を使用して、人間の身体的行動の理解を深め、人々が活動的・健康的なライフスタイルを取り入れるのを支援する新しいハードウェアとソフトウェアのサポートツールを設計する。</p> <p>(12 藤山真美子) 都市・建築空間は、自然、インフラストラクチャー、人工環境等の様々な諸条件によって構成されている。さらに、文化的、社会的背景やデザインコンセプトなど、空間形態を統御する内在要因もある。これらの重層的構造を解明し、どのように都市・建築空間が形づくられ、私たちの日常生活や感覚に影響を及ぼすかについて、工学的理論と芸術的感性を複合した視点から、研究やデザイン提案を行う。</p> <p>(13 Le Hieu Hanh) 多種多様なデータを蓄積し有効に活用することが求められる中、信頼性の高いデータ格納方法や高速なデータ処理および高度なデータ分析等を実現するために、データ管理活用に関する研究する。医療・言語・地理・文化等といった多種多様な情報を対象とし、データを有効的に集積・格納した上で、有益な情報を創出する分析方法の研究開発に取り組む。）</p> <p>(14 土田修平) 工学的なアプローチにより未知の表現世界を探索する「表現工学」の研究に取り組む。動きや感覚をデータ化し、情報として処理することで、新たな表現やそれを支援する手法の創出を目指す。アート・エンタテインメントやダンスなどの分析・創作・指導・評価などへ応用する。</p>	<p>共同</p>
----------------	---------------------	--	-----------

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。